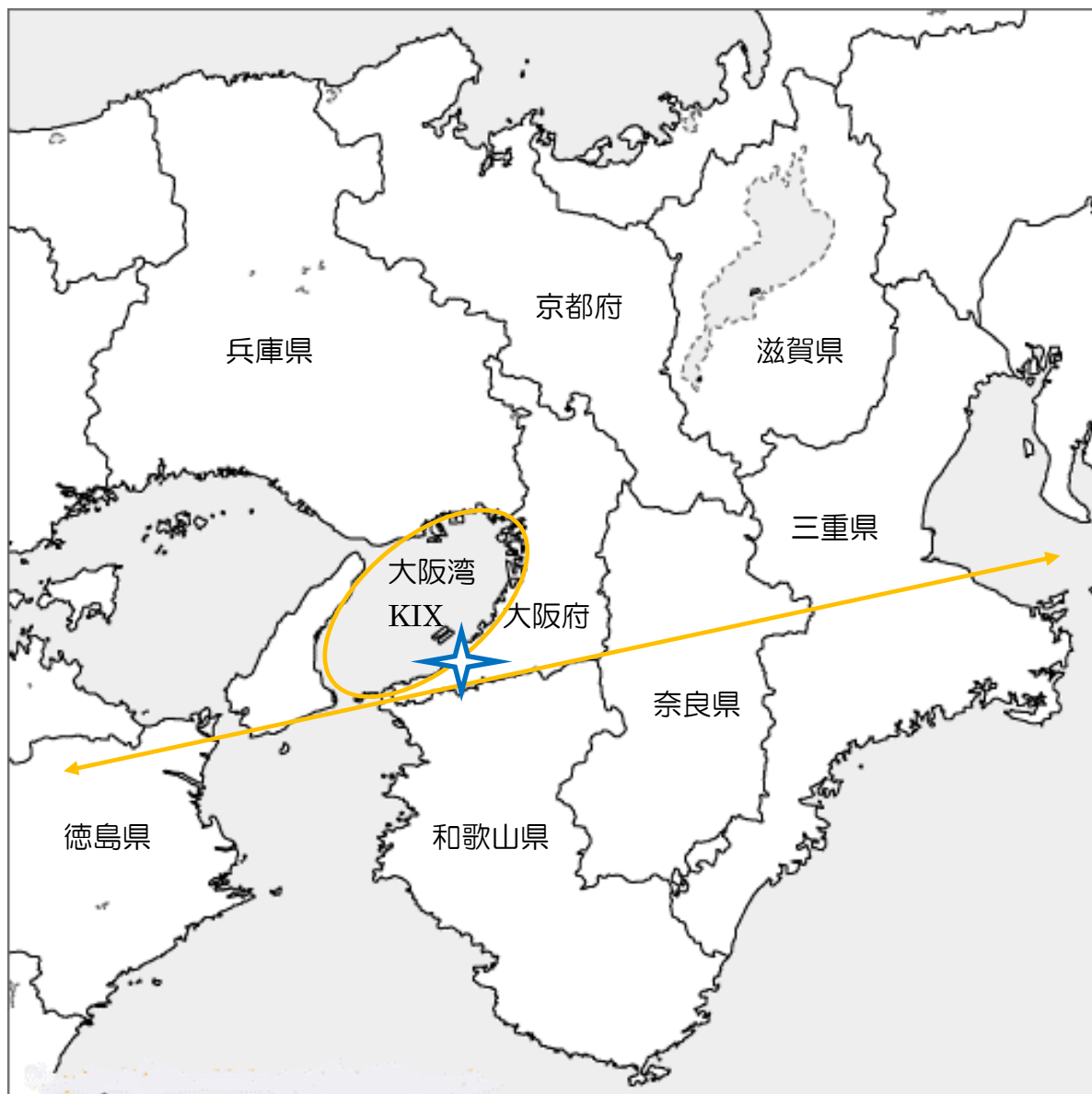


SENNAN まちづくり

楽しく・学び・発信した 初期の回顧録

発行：NPO 法人せんなんまちづくりねっと

活動拠点：大阪府泉南市



大阪湾コリドールプラン



第二国土軸構想

KIX（関西国際空港）

私たちは

1、子どもには「夢を」

2、若者には「誇りを」

3、高齢者には「生きがいを」 を

スローガンに 住んでよかった泉南市の実現に 寄与したいと

自由に話し合い・楽しく学習し・実践活動をしてきました

結成以来の 熱き想いで活動した

初期の記録です

！

■団体の概要	4
■活動分野のテーマと想い	5
■活動の記録 (1年目)	6
(2年目)	7
(3年目)	8
(4年目)	9
(5年目)	10
(6年目)	18
(7年目)	24
(8年目)	29
(9年目)	35
(10年目)	41
(11年目)	48
(12年目)	51
(13年目)	53
■活動の果実	56
■会員動向	57
■編集後記	58

■ 団体の概要

('98.6.6) —平成10年—

□ 設立

平成9年(1997)6月、泉南市教育委員会社会教育課(現：生涯学習課)の「生涯学習まちづくり市民会議」に参加しませんか? の呼びかけにより、市民19人が参加し初会合、会の運営方法、目標について話し合う。以後、全て自主運営。翌10年(1998)6月に名称を「SENNANまちづくり市民会議」と決め、会則・役員を16名の参加者で決定する。

□ 目的

住んでよかった泉南市の実現に寄与する。

□ 活動のコンセプト

自分の住んでいる泉南、夢があり・活気に満ちた・安心して暮らせるまち、泉南“いいまち”と誇れるまちにしよう! まちづくりは行政だけでも、住民だけでもできない。住民が主体的に行動し、行政は住民の活動を支援し、行政と住民がパートナーシップのもと、早期実現のために、協働してまちづくりを行っていくことが「ほんまもんのまちづくり」であると考え、自主的に学習しその成果を、楽しく実践活動に活かすこと。

□ スローガン

平成14年(2002)4月、活動のバックボーンの願いを込めた、キャッチフレーズ「子どもには夢を! 若者には誇りを! 高齢者には生きがいを!」を採用。

□ 加入団体

- ・泉南市ABC委員会(1999~2019)
- ・大阪府地域づくり団体協議会(2003~)
- ・登録有形文化財 山田家住宅保存活用協議会(2004~2014)
- ・熊野街道信達宿 藤保存会(2006~)
- ・泉南市観光協会(2012~)

□ 定例会

日時：毎月 第3土曜日 13:30~17:00 会場：樽井公民館
(現在は、毎月 第2日曜日 10:00~12:00 市場区民センター)

□ 会員数

会員：10~19名 賛助会員：5~16名
(現在は、会員10名 賛助会員5名)

□ イベント開催への想い

学習し実践した成果を、市民のみなさんと共有したいとの想いでイベントを開催し、その発表の場が、誰かの・何かの「きっかけ」になればよいと願っている。

また、その場の交流で我々の活動の、よき理解者が増え、アドバイスを貰い、反省・ヒント（活動の肥やし）になればラッキーと考えている。

■ 活動分野のテーマと想い

活動テーマの選定は、地域の課題さがし・宝さがし・宝みがきと考え、以下の部会を中心に取り組んできた。

☆☆☆ 生涯学習部会 （生涯学習でまちづくり）☆☆☆

テーマ：生涯学習で楽しく学んだことが、地域に還元され生きがいとなる活動

人はどういう時に「学ぶ」のでしょうか？ ある課題があって、それを解決したい時、また生活が豊かになって、より自分を向上させたい時など。「学ぶ」ことは人との出会い・物との出会い・事との出会い、自分との対話です。「生涯学習」とは、誰もがいつでも自由に学習機会を選択して、楽しく学ぶことができ、さらにその成果を地域社会に還元できることで、生きがいとなります。まちづくりは人づくりとよく言われます、コミュニティは「個人の集合体」まさにまちづくりのキーワードが「生涯学習」です。学習した成果が適切に評価される社会「生涯学習社会」を市民と行政との協働で実現しましょう。全国各地で開催される、地域づくり研修会や実践交流会に積極的に参加し、研修を重ね、成果発表の場として、イベントの開催や、ホームページでの情報発信をしています。

☆☆☆ 文化・歴史部会 （史跡を活かしたまちづくり）☆☆☆

テーマ：泉南の歴史的文化財の保存活用と、文化創造活動

泉南は緑ゆたかな里山や豊饒の海と温暖な気候に恵まれ、弥生の昔から人の営みが栄えた土地でした。白鳳時代の海会寺史跡をはじめ熊野街道沿いには、王子跡・本陣跡など古い町並みに歴史的文化財が保存されています。江戸時代から続く庄屋屋敷が新家にあります、280年前に建造された主屋をはじめ、土蔵・長屋門、幕末の南画家の第一人者“日根対山”の襖絵など、民具・武具も見所いっぱい「山田家住宅」の文化財指定運動を長年続けたことが実を結び、登録有形文化財に認定されました。また山間部には伝承の姫君で有名なお菊松ハイキ





ングコースがボランティアの手で整備され、海浜部には関空に沈む夕陽のスポットが注目をあびてきました。文部科学省支援生涯学習まちづくりモデル支援事業で誕生した「泉南太鼓塾」が新たな無形文化財に発展するよう市民会議も支援していきます。

市民の力で、埋もれた歴史・自然遺産を発見し、新たな文化活動を育て・磨きながら情報発信していきましょう。

☆☆☆ 環境部会 (ホタルの住めるまちづくり) ☆☆☆
テーマ：泉南の美しい環境を守り、未来に引継ぐための活動

21世紀は環境の世紀といわれています。温暖化をはじめとして、地球規模での対応が求め



られています。このような状況の中で、私たちがこういった形で環境問題に取り組めるのか、また取組んでいかなければならないのか、大きな課題を抱えております。そこで、私たちは自然との共生を計りながら、生物を通して学習し、環境保全に寄与するといった観点から、河川環境保全や生態系保全のバロメーターとなるホタルの生息を助長していくことにしました。子ども達の未来のためにも、この活動を継続していかなければ

ならないと考えています。自然環境を守り、近い将来この泉南がホタルの里として人々の心を癒やし、出会いの場となることを願い「せんなんホタル塾」を開講し、広く市民のご理解・ご協力と、この活動への参加をお願いしました。

ハイケボタルのピオトープづくりにもチャレンジしましたが、難題が発生し中断しました。大阪湾再生プロジェクト（アマモの藻場育成）にも協力しています。



■ 活動の記録（時系列）

※参加したが内容不明分も掲載しています。

□ 1年目 -1997年（平成9年）-

（'97.6.21）

◇ 「初会合」

19名の市民を集めて初会合。発起人が発会説明を行い、次いで各参加者が自己紹介をおこない、会の目標・運営方法について話し合った。

学習派と実践派に意見が分かれたが、「生涯学習まちづくり市民会議」としてスタートした。

（'97.7.19）

◇ 「2回目会合」

今後の運営方法について話し合う。

- 1、幅広く自由に参加してもらえるように、テーマを限定せず広く「まちづくり」とする。
- 2、当分の間、学習的内容とし、適宜実践しながら、将来的には提言を目標とする。
- 3、個別の具体的テーマについては、参加者が多くなれば、複数チームとして可能である。

('97. 9. 6)

◇ 情報提供の呼びかけ

他の地域活動グループとジョイントしながら、まちづくりに取組みたいと、各団体に情報提供のお願い文を発信。

('97.10. 7)

◇ 「JC例会」

JC10月例会「まちづくりと情報発信」に参加。

('97.10.18)

◇ 「会報」第1号発行

情報の提供呼びかけだけでなく、発信も大切と会報を発行する。

('97. . .)

◇ 「市内見学会」

樽井公民館主催の市内見学会参加。

(海会寺跡・本陣跡・岡中の大樟・金熊寺梅林・ディーセンター・りんくうタウン)

('97.11. 1)

◇ 「部会」発足

- 1、文化歴史部会（歴史的建造物の見学会・市内要所の見学会）
- 2、文化ホールの活性化部会（館長との会談・まちかどかわら板設置）
- 3、生涯学習研究部会（全国生涯学習まちづくりサミット参加・交流）

□ 2年目 -1998年（平成10年）-

('98.5.9)

◇ 「山田家」保存への取組みについて意見交換

活動の大きなテーマである、歴史的建造物の保存取組みについて議論。まずは、知ることから始めることにした。

('98. 6. 6)

◇ 第1回「総会」

初の総会を、あいびあ泉南会議室で開催。事業報告・会計報告・役員選出・会則を承認、名称を「SENNAN まちづくり市民会議」とする。（以下文中は、市民会議）

（'98.6.6）

◇ 旧「新川家」見学会

総会の後、泉佐野市に残る江戸時代の醤油屋敷跡の見学会実施。
一般公開保存費用などについてヒアリング。

（'98.9.14）

◇ 知事対話 ～ようこそ知事室へ～ ！

知事対話に参加し、代表末田が「シーサイドレストランの誘致について」横山知事に直接提言した。

（'98.10.3）

◇ 全国生涯学習まちづくりサミット（明石市）

- ・ 基調提言「生涯学習まちづくりの現状と課題」
- ・ 事例報告「全国のまちづくり事例に学ぶ」
- ・ シンポジウム「生涯学習でまちはどう変わるのか」に参加。

（'98.11. ）

◇ 全国生涯学習まちづくり研究会（亀岡市）

（'98.11.26）

◇ 「旧家の見学会」

泉南「山田家」、泉佐野「旧向井家」、熊取「中家」を見学（参加者27名）

（'99.1.29）

◇ 生涯学習市民の集い〔泉佐野市〕

一部：シンポジウム「青少年教育について」 聴講

（'99.3.22）

◇ 公民館講座 “ならまち見学会”（奈良市）

元興寺極楽坊、音声館などの見学に参加（参加者26名）

□ 3年目 —1999年（平成11年）—

（'99.5.30）

◇ 第1回 関西地区生涯学習実践交流会（亀岡市）

（'99.6.5）

◇ まちかどかわら板の作成・設置呼びかけ

文化ホールの催しや市内各グループからのお知らせなどを掲示する「まちかどかわら板」を作成。個人宅の壁や塀などを利用させてほしいと、設置の呼びかけをするが成果上がらず！

（'99.7.25）

◇ 公民館講座“まちづくり見学会”

大阪市平野区「町ぐるみ100博物館」の見学会に参加。

（'99.10. ）

◇ 知事に“中座の保存と活用”について提言！

署名270人分を同封して、残すべき提言書を郵送した。

（'99.10.30）

◇ 宇治十帖スタンプラリー参加（宇治市）

11月開催の熊野街道スタンプラリーの参考にする為に参加。

（'99.11.21）

◇ 「熊野街道スタンプラリー」開催！

ABC委員会事業を主管して、泉南市内を縦断する熊野街道を69名の参加を得て開催。新家駅を起点に和泉砂川駅までの10ポイントを歩き、わがまち再発見をしてもらった。

（'00.2.26~27）

◇ 第2回 関西地区生涯学習実践交流会（南あわじ市）

（'00.3.31）

◇ 生涯学習市民の集い〔泉佐野市〕

□4年目 -2000年（平成12年）-

（'00.5.14）

◇ 豪農の館で聴く「アルパの調べ」

- ・江戸時代から続く庄屋の邸宅「山田家」をご存知ですか？
- ・南米のハーブ「アルパ」の演奏をお聴きになったことは？

保存活動の一環として、市民の皆さんにまず存在を知ってもらおうと、アルパ奏者でセラピストでもある、上之山幸代さんのお喋りとアルパの演奏会を開催。（参加者100名）

('00. 7.25)

◇ 公民館講座 “まちづくり見学会”

岸和田市本町界隈「紀州街道まちづくりの館」見学会に参加。

('00.10.)

◇ 第2回「熊野街道スタンプラリー」開催！

ABC委員会事業を主管して、第2回目を開催。この日は、市制30周年記念事業として、熊野詣で時代絵巻が同時開催された。(参加者40名)

('00.11.)

◇ 「昔の遊びフェスティバル」 (市制30周年記念事業)

昔懐かしいいろんな遊びと、どんぐりのこままわし競技決勝大会を同時開催。

('00.12.)

◇ 第3回 関西地区生涯学習実践交流会(滋賀県)

第1分科会「コミュニティの構築と活性化」で、代表末田が“泉南市のまちづくりと生涯学習”と題し、以下の活動概要を発表。

まちづくりは、行政だけではできない、市民が主体的に行動し、行政がそれを支援し、協働してまちづくりを行っていくことをモットーにしている。話し合いを重ねた結果「文化・歴史のまちづくり」と、まちづくりを進める上で必要な「メンバー自身の生涯学習」をメインテーマに取り組んでいる。

具体的には「文化・歴史のまちづくり」では、江戸時代から続く庄屋である山田家の保存と活用について、またそれと関連して近くをとおる熊野街道を含めた地域の文化遺産を、全体的な広がりをもった取組みとしていきたいと考えている。

また、まちづくりを進める上でメンバー自身の研鑽を図るため、各種シンポジウムに参加したり、各地の先進的な事例を学んだり、多くの人々と交流することも積極的に行っている。

('01. 2.26~27)

◇ 龍神村「一泊研修会」

一日目は、南部町役場で同町の生涯学習の現況説明を受け、意見交換をした。夜は、姉妹提携中の龍神村名湯に浸かり、懇親会で親睦を図った。

二日目は、龍神村役場で、地域ボランティア団体「手づくり石鯿クラブ」5名の参加を得て、環境への取組みについて事例報告を聞き、質疑応答・意見交換で研修を終えた。



□5年目 -2001年(平成13年)-

('01. 4.)

◇ 総会開催 活動の三本柱を決定！ 役員も一新！

定期総会で審議の結果

- ① 今後の活動計画は、「生涯学習」「文化歴史」「環境」にターゲットを絞ることとなった。
- ② 役員改選は、大幅な刷新となった。
二代目代表は女性の西野。 情報発信が大切と広報を設ける。

('01. 5. 7)

◇ 京大原子炉実験所見学

地域への安全周知のため一般公開されている機会に、市民会議として申込み8名が参加した。広い構内を職員に案内・説明を受け、医療技術・材料分析などの分野での貢献を知る。

('01. 5.18)

◇ 市長表敬訪問

役員一新を機に、向井市長を表敬訪問し「まちづくり」について意見交換。

('01. 5.31)

◇ 市町村合併シンポジウム in 泉南

～皆で考えよう地域の未来～ がテーマの、泉南市文化ホール開催に参加。

('01. 6. 2)

◇ 岸和田市産業振興ビジョン策定記念シンポジウム

('01. 6. 6)

◇ ホタル見学会開催

泉南高校の田中先生による、ホタルウオッチングを開催。 男神社境内・林昌寺竹林のヒメボタルを觀賞して、パワフルな自然が泉南に残されていることを発見。

('01. 6. 9)

◇ 全国生涯学習まちづくり研究会大阪支部交流会

('01. 6.18)

◇ 「会報」リニューアル発行

情報発信が大切と会報を一新！ トップに新任代表の所信を掲載！
・「市民会議について」

今「地方分権」の波が押し寄せ、行政と市民の意識改革が求められています「自分たちのまちは、自分たちでつくる」というのが 自治の原点ですが、まちの現状や課題を知らずして「まちづくり」はできません。 また住んでいるだけでも、コミュニティは育ちません。 私たちメンバーは、まちを愛し「住んでよかった泉南市」をつくりたいという夢をもって集まってい

ます。 発足して5年目ですが、対話の中から新たな考え方や真理が生まれ、実践活動に移しています。 近い将来、市民・行政・企業のトライアングルで、さらに活動を発展させていこうと頑張っています。

皆さんも、好奇心をもって、自分のまちを見直し、自分たちにできることから一緒に始めませんか。 =一滴のしずくから、大きな波紋を広げましょう= (西野)

各担当所信

・「旧家（山田家）保存」

山田家は新家にある江戸時代から続く庄屋です。日根対山の掛軸を初め美術工芸品が多数所蔵されています。私たちは文化と歴史のまちづくりをめざして、泉南市の貴重な文化遺産である山田家の保存に向けて取り組んでいます。(北川)

・「環境問題」

21世紀は環境の世紀、自然との共生を計りながら、豊かな泉南市の自然環境を守るため、「ホテルとの共生」をテーマに分布調査から始めました。6～7か所で生息を確認しましたが、これらの保護方法を検討しながら、この環境を後世に残していきたいと考えています。(南)

・「エコマネー」

自分に出来ないことをしてもらい、出来ることをしてあげる。向こう三軒両隣。お金で買えないものを買える、売れないものを売れる。そんな善意にあふれるまちづくりを考えてみたい。(浅井)

・「会員拡充」

住んでよかった泉南市のまちづくりには、助っ人が必要！ 意気を感じて泉南市の明日（子どもたちの未来のため、自分の生きがいのため）にチョット頑張ったろうかという人、大歓迎！ 楽しい定例会に一度おいでください！（森広）

（ '01.7.22）

◇ 泉南広域行政公開討論会

（ '01.8.18）

◇ 田尻町エコマネー学習会

友好団体の、田尻町まちづくり住民会議で取り組んでる、エコマネー勉強会に参加

（ '01.8.25）

◇ 関空2期工事現場見学会

一般公募の見学会に参加。2期埋め立て現場を船で巡回し、1期島の近くでは稚魚の放流などを体験した、日本の埋立て土木技術水準の高さに感嘆！

（ '01.9.5）

◇ 泉南市行財政改革推進委員会委員

行政経験者特命（山下）、市民公募（森広）、の2名が参加

('01. 9.28)

◇ 「会報」 2号発行

('01. 9.29~30)

◇ 第4回関西地区生涯学習まちづくり実践交流会（和歌山県）

和歌山県は熊野古道のふるさと「中辺路町」で開催。

関西各地で生涯学習によるまちづくりを積極的に展開している地域リーダー200名が一同に会した。 一部は、八潮市・亀



岡市の元市長、南部・中辺路の各町長をパネラーに今西教授（京都学園大学）のコーディネ

ートで“まちづくり談義”。 二部は、四分科会「教育・青少年・女性」「健康・福祉・環境」「文化・歴史・観光」「地域づくり」に分かれての実践報告や意見交換を通して、まちづくりの取り組み方を学習し、夜はキャンプファイアーを囲んでの交流会で、

他府県の参加者と交流を深めた。 二日目は、熊野古道の語り部「標探古道」グループのボランティアガイドで現地研修、イチイガシの記念植樹も経験した。



('01.10.13 ~ '02. 6.15)

◇ 第1期 「せんなんホテル塾」 1回目開講！

この夏確認した泉南のホテル生息地とその自然環境を後世に残すため、市民で頑張る「ホテルの里」づくりをしませんか！ 市民会議が企画運営する公民館講座として、市民から15名の参加を得て、環境省自然公園指導員でもある泉南高校の田中正視先生を塾長に開講し、ホテルの一生の解説と今後のカリキュラム説明でスタート。

この講座は後援：泉南市教育委員会・泉南中央ライオンズクラブ・泉南ロータリークラブ・泉南青年会議所、協力：泉南の里山をたいせつにする会の皆さんに賛同を得て開催。

- 2回目は、“ほたるの森資料館”（守山市）と“琵琶湖博物館” 見学。（後記）
- 3回目は、吹田市文化会館で開催された、「ヒメホテルサミット」に参加。（後記）
- 4回目は、公民館での学習会。
- 5回目は、男神社でのヒメホテル観賞会。
- 6回目は、ホテル観賞の夕べ（紀泉ふれあい自然塾）開催で、第1期を閉講。（後記）

('01.10.14)

◇ 庄屋の屋敷で聴く「ギターの調べ」

新家の山田家で開催した、ギターコンサートは、好天にも恵まれて、他市町からも多くの方の参加がありました。 公開された屋敷内外・民具・武具・美術品を見学し、郷土史研究家の向井俊生さんから山田家の由緒話を聞いた後、田頭雅法さんのクラシックギターの調べに、秋の心地よい泉州の風を感じなが



ら、文化の薫り高い、癒しのひとときを過ごしました。「地元文化財の中で、このような催しができることはたいへん誇らしいです！」など好評をいただきました。これからも文化的行事を継続していきたいですね。

(‘01.10.30)

◇ 生涯学習課と意見交換会

(‘01.11.4)

◇ 「ほたるの森資料館」見学会

“せんなんホテル塾”の見学会を開催。好天に恵まれて、近江路は守山市にある、“ほたるの森資料館”に出向き、山下館長から、ホテルの一生について講義を受け、ホテルの散歩道・飼育研究施設なども見学しました。帰路、琵琶湖博物館にも立ち寄り、近畿の水瓶の生い立ちと、その大切さも学びました。



(‘01.11.19)

◇ 緑資源公団へホテル保護請願書提出

新家川上流のホテル生息地域での河川改修工事（農用道関連）に関し、生息環境保護の請願書を緑資源公団に提出しました。

(‘01.11.25)

◇ 話題の「米百俵」映画鑑賞会を開催

11月25日樽井公民館を会場に、昨年の流行語大賞にも選ばれた「米百俵」映画鑑賞会を開催しました。小泉首相の構造改革の痛みで話題の映画ではありましたが“旧長岡藩・小林虎三郎が主人公の物語”に、教育の大切さを再確認し感動された方も多かった。

また当日は運営費の一部充当の募金に協力して頂きました。感謝！

(‘01.11.28)

◇ 緑資源公団と現地協議

11月19日提出の請願書に対し、現地協議をした結果、生存環境を極力破壊しないで工事を進める旨の回答をもらった。

(‘01.11.28)

◇ 庄屋屋敷「山田家」登録有形文化財に申請

山田家を、登録有形文化財に申請したことが、1月17日アイデア環境大賞授賞式の席上で、向井泉南市長との懇談で判った。数年に亘って保存活動を続けてきた、市民会議その他の活動の成果といえるでしょう。広く市民の皆さんにその存在を知ってもらう為、イベントなどを今後も定期的で開催する予定。

（'01.12.1）

- ◇ 公民館講座「まちづくりワークショップ」（富田林寺内町・久宝寺寺内町）
それぞれが、まちによってよく保存されている様子が判り、歴史遺産伝承の参考になった。

（'01.12.11）

- ◇ ホームページの開設
紙情報「会報」にプラスして、電子情報「ホームページ」を開設。

（'01.12.28）

- ◇ 「会報」3号発行

（'02. 1. 1）

- ◇ 広報せんなん1月号「新春対談」に、代表参加！
恒例となった“広報せんなん”1月号の市長と語る“新春対談”に、市民会議から代表西野が参加し、21世紀は環境の世紀をテーマに意見交換。
— 発言要旨の一部は以下のとおり —
・まちづくり市民会議・・・環境部会で・・・ホテルの保護活動で泉南市がホテルの里に・・・
・日常生活と環境問題というのは不可分であると思っています・・・個人の責任において・・・簡単なものから実践しています・・・牛乳パックの回収時に、廃油も回収を・・・
・資源循環型の社会を確立させるのは、住民の意識だと思っています・・・
・全国の生涯学習によるまちづくり実践交流会に、参加していますが、多くの若い人たちがまちづくりについて、積極的に参加してきていると感じています。

（'02. 1.17）

- ◇ アイデア環境大賞表彰式
昨年10月に泉南市が募集した“環境実践アイデアコンクール”に市民会議から応募したアイデア「ホテルの里づくり」が、団体の部で佳作に選ばれ、庁内で表彰式があった。
また、当会メンバーの西野が個人の部で大賞を、北川が佳作を受賞した。
'03年には杉山が、'04年には尾屋が応募し、ともに受賞。

（'02. 2.15～16）

- ◇ 第16回 地域づくり団体全国研修交流会（群馬県）
・高崎分会（赤城分科会）「ほっといきまちづくり・からっ風コース」高崎市
私は、泉南市の職員であり、市民主体のまちづくりに取り組んでいる「泉南まちづくり市民会議」のメンバーでもあります。今回、幸運にも参加する機会を得たので、報告させていただきます。
① 分科会、分散交流会の内容について
大会1日目は、4会場にて4分会・16分科会コースに分かれ、2日目は県庁で全体会が開催されました。大会テーマは「認めあう力・響きあう心」です。私が参加したのは高崎分会（テ

ーマ)は「湯!活!勝!〜お持ち帰りは“元気”〜)の赤城分科会(テーマは「ほっといきまちづくり」)の「からっ風」コースです。このコースは参加者が多かったので10人程度のグループに分かれて高崎経済大学の学生のワークショップである「高崎活性剤本舗」とNPO法人「街・建築・文化再生集団(RAC)」の皆さんの案内で高崎市中心街のタウンウォッチングを行いました。具体的には、最初に、現在「もてなし広場」として利用されている旧市庁舎の跡地をもっと有効に利用できる方策について考えました。多目的広場として市民に開放し、イベント等に利用されるのが本来の目的であるが、実際は駐車場として使われることが多いという説明でした。

次に、「さやもーる」は「ミニ渋谷」をキャッチフレーズにした場所で若者向けの店が多くアーケードもなく明るい感じがしました。また、ここではチャレンジショップを実施しており、うまくいってる事例を紹介していただきました。この「さやもーる」の続きにある「中央銀座通り」商店街を歩きました。平日の午後ということもあったと思いますが、シャッターが閉じた店舗もみられ、アーケードが低く薄暗い感じで活気が感じられませんでした。次に、高崎市は城下町であり、中山道の宿場町でもあったため歴史的建造物が点在しており、そのいくつかを見学しました。また、空き店舗を利用し「高崎活性剤本舗」の事務所を訪問しました。ここは、店舗としてではなく、情報発信基地として使っているそうです。内部は、タウンウォッチングした成果や中山道の様子が展示されていました。また、市街地に駐車場が多く存在していることと駐車場案内システムが併せて問題提起されました。次に、JR高崎駅西口駅前広場のペDESTリアンデッキの有効性、都心環状線の拡幅問題、歴史的建造物である旅館が舗道の拡幅により、セットバックしている工事現場等多くの実例を見学し、その現状と問題点並びに私のまちとの比較等考えさせられました。タウンウォッチングの後、市役所でグループ毎に参加者の間で感想や意見交換が活発に交わされました。

その後、駅ビルにあるホテルで分会の交流会が開かれました。会場には地元物産の販売コーナーも設けられ、アトラクションとしてバンド演奏と高崎経済大学応援団の皆さんによる男性的で元気いっばいのパフォーマンスを披露してくださいました。交流会では、各分科会の内容や互いの活動について活発な意見交換や交流が行われました。

② 参考になった事柄

私が所属する団体は、まちづくりを目的にしており、主要なテーマの1つとして歴史的建造物を活かした文化・歴史のまちづくりに取り組んでいます。案内していただいたRACの方も歴史的建造物や中山道を活かしたまちづくり・まちの活性化について話されました。

意見交換の場でも、文化・歴史を大切にしているまちは魅力があり、道路や駐車場を整備して便利だけでは人は集まらないのではないかと、まちに楽しさや潤いがなければ人は集まらないのではないかと改めて感じました。

③ 他府県からの参加団体について

2日目は、県庁の近くにある群馬会館で全員参加フォーラムが開催され、各分会・分科会から内容について報告されました。他の分科会でも地域づくりの様々なテーマについて密度の濃い有意義な内容であったことが伺えました。また、会場からの意見や質問も活発に交わさ

れ、最後に、会場から「1人1人が元気にならないとまちはよくなる」という趣旨の発言があり、この発言を受けて壇上の報告者から人材育成のスクールを開設する旨の応答があり、コーディネーターが「やっぱり地域づくり、まちづくりは人ですね。これからの地方分権は自己決定、自己責任が問われます。それには、1人1人の意識が変わらないと、1人1人が自立して地域と向き合わないと、本当の個性ある地域づくり、まちづくりはできませんね。」という内容の趣旨で締めくくられました。これは、よく言われる「まちづくりは、人づくり」が結局の結論ではないかと思いました。私も以前からそう思っていましたし、「人」をつくるのは生涯学習だと思います。「生涯学習による人づくり」は「生涯学習によるまちづくり」につながると思います。

こういった研修会では、各分科会の報告がなされることが多いですが、報告者のプレゼン能力が如実に現れることを改めて感じました。また、コーディネートされた「NPOぐんま」熊倉氏の進行・コメント・まとめ方がたいへん素晴らしく、最後はとても引き締まった全体会となりました。

フォーラム終了後、県庁展望ホールで全体交流会が開催されました。その際、桐生分会第3分科会「いい町にはいい女～かかあ天下のファッションパワー～」の運営を担当された「ゆうまちゃんくらぶ」の方と話がはずみ、その方のご厚意で交流会終了後、桐生の街を案内していただきました。私が、歴史的建造物を活かしたまちづくりに関心があるという話をしたところ、桐生市は織物で栄えたまちで、古い街並みも残り、古い建物を活用している事例がたくさんあるということで、その内のいくつかを案内していただき、当該施設の方からも多くの資料をいただき、たいへん有意義に過ごしました。

この度の、研修交流会に参加させていただいて、地元群馬県をはじめ全国各地から地域づくりに取り組んでいる人々が集い、交流することは実質的に意義があると改めて感じました。この大会を契機に群馬県での地域づくり活動がより一層活発になるのではないかと感じます。

私自身、多くの地域づくりの事例を直接学ぶことにより視野を広めることができ、また、街を案内してくださった親切に感謝し、人と人とのふれあい、交流の大切さを改めて実感し、今後の活動へのエネルギー、“元気”をいただきました。全体フォーラムの締めくくりにもありましたが、やっぱり行き着くところは「人」であると思います。(報告：北川)

(‘02.2.17)

生涯学習全国研究者大会(亀岡市)

(‘02.2.23)

◇ 泉南市まちづくりフォーラム

「市民が語る泉南市の夢づくり」をテーマにフォーラムが開催。

- ・一部は“第4次泉南市総合計画”の紹介。
- ・二部は“泉南市の夢を語る”をテーマにパネルディスカッションが開催され、代表西野がパネラーの一人として参加。

(‘02.3.10)

◇ 第6回「ヒメボタルサミット」(吹田市)

吹田市文化会館で開催された、「ヒメボタルサミット」に、ホテル塾から16名が初参加。大場信義(横須賀市自然博物館主任学芸員)氏の基調講演「生態・分布と保全活動のあり方」に耳を傾け、関西9地区からの調査報告と開発環境保護についてのQ&Aで勉強した。

我々も、公民館講座「せんなんホテル塾」開講への想いとして、資料参加した。

(‘02.3.16)

◇ 落語“まちづくり出前寄席”

会員木村によるピアノ弾き語りで開幕。 ・一部は泉南のまちづくりに、情熱を傾けている4名をパネラーに迎えて活力溢れる「住んでよかった泉南」の明日を、矢野大和さんのコーディネートで、共に熱く語り合いました。



途中のリラックスタイムには、同じく会員三好ひさるの“マンドリンアンサンブルはるか”の演奏による癒しタイム。

・二部は、大分県宇目町からお呼びした変わり種の行政マン(観光大使)矢野大和さんによる軽妙洒落な語り口での落語“まちづくり”で、参加者を笑いの渦に巻き込みながら、まちづくりのヒントを沢山頂いた出前寄席でした。

(‘02.3.22)

◇ 庄屋屋敷「山田家」国の登録有形文化財認定

山田家住宅を、登録有形文化財に認定したことが、3月30日に開催された“さろん de 古代史博物館”「新家山田家住宅について考えます」の講演会場で、向井市長から発表があった。

山田家ご当主の篤志と市民の熱意があったからこそ今回の認定となった。保存と活用の両輪で、地域文化の継承に努めましょう。

□6年目 -2002年(平成14年)-

(‘02.5.)

◇ ミニコミ紙“いあみせん”に、「代表&市民会議」掲載

読売新聞のミニコミ紙「いあみせん 19号」一面全紙に、代表西野が市民会議のまちづくりにかける思いや、活動内容が紹介された。

(‘02.5.12 ~ ‘05.11.13)

◇ 田尻川クリーンキャンペーン

友好団体の田尻町まちづくり住民会議が主催する、クリーンキャンペーンに6回参加。汚かった田尻川の美化に協力しました。

(‘02.5.19)

◇ 紙飛行機「ライト兄弟に挑戦」

市民体育館に370名の家族連れが大集合。（泉南市220名、泉佐野市29名、阪南市14名、泉大津市12名、岸和田市8名、熊取町、貝塚市、河内長野市、田尻町、堺市、藤井寺市、寝屋川市、富田林市、和歌山市、八尾市、大阪市、遠くは京都市）

広範囲からの参加者で大盛況となった。新聞を見て、急遽参加の親子連れも多かった！

講師の飯島実さんは、空気と引力の不思議空間で、紙を素材に独創的な形状で浮遊する物体を懇切丁寧に製作しライトの指導をしながら、ライト兄弟が飛行機を発明した原点を熱い想+

ゲストの石井芳治さんは、紙飛行機の世界チャンピオンで、完成された作品の数々を披露し、長時間滞空の夢を伝授。子どもたちは広々とした無風の空間を、大人たちも安全・安心の空間で子どもと一緒に伸び伸びと楽しんでくれました。

最後に参加者全員で、ごみ拾いができ、とても意義深いファイナルとなった。

■当日 読売新聞（大阪版地域ニュース）朝刊に掲載
「紙飛行機の魅力知って！きょう泉南で手作り教室」
講師：飯島実さん（元航空保安大学教官）
石井芳治さん（紙飛行世界チャンピオン）



♡ ちょっといい話 ♡（後日参加者から頂いた手紙）

前略 突然のお手紙 お許し下さいませ、5月に体育館で開催された“紙飛行機を飛ばそう”に参加させて頂きました。

その時に先生のえんぴつを1本持ち帰ってしまいました すみません

次の日に、生涯学習課の方に電話をし、えんぴつの事をお話しさせて頂きました。

6月15日の“ホテル観賞の夕べ”に参加し、その時にお返しをしようと考えていたのですが行けなくなりました。お手数とは思いましたが、えんぴつを郵送させて頂きました。本当に申し訳ございません、よろしくお願い致します。

敬具

2002.6.5 泉大津市 T.T

（'02.5.22）

◇ 食廃油からの石鹼づくり見学会（ゴミ焼却場）

泉南・阪南共同清掃組合で、阪南市の婦人会が取組んでいる、食廃油での石鹼づくりを見学。その後、泉南市婦人団体協議会で取上げられ、普及活動に繋がり、継続されている。

（'02.5.25）

◇ 環境会議テレビ撮影

田尻町まちづくり住民会議との環境問題合同会議と、アイデア環境大賞の実践例をケーブルテレビが取材、後日放映されました。

('02.6.)

◇ 旧庄屋屋敷「山田家住宅」に登録有形文化財認定プレートの授与

市民会議が、ご当主の許可をいただき、保存活動を展開していた「山田家住宅」が、市の申請で、国の登録有形文化財に認定（3月22日付け）され、この度ご当主に認定プレートの授与がありました。140～210年風雪に耐えた母屋・土蔵などに登録文化財のお墨付き。

市民活動が行政を動かす、協働社会実現への一石となった。

登録制度は、さまざまな建造物を自由に活用しながら保存し、地域文化の継承・活性化に資する制度。近隣では、岸和田市「五風荘」・貝塚市「水間駅舎」・泉佐野市「新井家住宅」・熊取町「中家住宅」・田尻町「田尻歴史館」・阪南市「成子家住宅」などがある。

('02.6.7)

◇ 「新家川上流の農道工事」進捗確認

昨年、市民会議から出した請願書「ほたるの生態に配慮した護岸工事」が完成し、現地確認を緑資源公団と行った。通称ホタル護岸が採用され、来年のホタル発生状況に注目したい。



('02.6.15)

◇ ホタル観賞の夕べ 第1回「音と光のページェント」

環境を守り、泉南をホタルの里にしたいとの思いでスタートした、公民館講座「せんなんホタル塾」の一環として開催された。梅雨の中休みという天候にも恵まれ、黄昏ゆく紀泉ふれあい自然塾（現称：わいわい村）に800名の市民が集まった。第一部は上之山幸代さん岡島正和さんのデュオと泉南市少年少女合唱団による、“アンデスとジパングの調べ”に日頃のストレスを癒し、第二部は田中正視先生の解説を聞いての“ホタル観賞”で、谷間にランデブーするゲンジボタルに歓声が上がっていました。



☆ 参加市民へのアピール ☆

21世紀は環境の世紀といわれます。中でも、自然との共生を図りながら環境保全に取り組むことが重要であると考えます。

泉南は豊かな緑の山・碧の海に恵まれています。その貴重な財産を、後世に美しいままで引き継ぐ為には、みんなで力を合わせて、汚したものはきれいにし、汚さない・汚させないことの実行が大切です。

わたしたちは、まず川の上流から美化を進めていく為、この堀河川の環境を保全し、そこに生息するホタルの保護をすることにしました。

この活動は、わたしたちの活動の原点「住んでよかった泉南市の実現に寄与する」から、平成13年度 泉南市環境実践アイデア大賞に応募し入選。

そしてこの地がホタルの里として、みなさんの心を癒し、また出会いの場となることを願い、

一昨年から行政との協働で、公民館講座「せんなんホタル塾」を開講し、観賞会「音と光のページェント」の実施に至っております。

市民の皆さまも「ホタルの住めるまちづくり」にご理解・ご協力いただくと共に、関心をお持ちの方は、一緒に活動をしていただきたいと思います。

(‘02.6.21)

◇ ミニコミ紙「きせんトークニュース」に、「市民会議」トップ記事

第1回ホタル観賞のタベを、市民ボランティア団体が主催するということで、発行部数 11万部のミニコミ紙「きせんトークニュース」の取材に応じ、市民会議・ホタル観賞のイベント・紀泉ふれあい自然塾についての紹介記事が、紙面のトップを飾った。

(‘02.6.30)

◇ 会報 Vol.2 発行

(‘02.7.16)

◇ 市長に提言書（山田家住宅の市指定文化財登録）提出！

登録有形文化財認定への申請手続きに対し感謝しつつ、さらに積極的に市指定文化財への登録をお願いした。

(‘02.10.19)

◇ 教育講演会「タカ君の通学路」（田尻町）

たじり TRY あんぐる主催の教育講演会に、市民会議が3月に開催した落語“まちづくり出前寄席”に出演頂いた、大分県の矢野大和氏が再度泉州に登場！ 講演会に参加した。

(‘02.10.26)

◇ 第5回関西地区生涯学習まちづくり実践交流会（枚方市）

枚方市“メセナひらかた”で市制施行55周年記念として開催された実践交流会に参加。基調鼎談「地域社会の活力と生涯学習」が、福留 強（聖徳大学教授）・政所利子（（株）弦代表取締役）・中司 宏（枚方市長）三氏による、市民・事業者・行政の協働によるまちづくりについての主張に続いて、四分科会に分かれての先進事例発表があった。

第一分科会「子どもが主役のまちづくり」、第二分科会「歴史と文化を生かしたまちづくり」第三分科会「福祉と人権のまちづくり」、第四分科会「環境と健康のまちづくり」。
市民会議も「山田家住宅の保存活動」「ホタルの住めるまちづくり」を発表をした。（森広）

(‘02.11.3)

☆ 登録有形文化財認定記念「大道芸・縁日フェスタ」

市民会議が、文化歴史を活かしたまちづくりの一環として、保存活動に取り組んできた旧庄屋敷「山田家住宅」が6月に国の登録有形文化財に認定されたのを記念して、イベントを開催した。ご当主・市長・市民会議代表による、プレートの除幕式に続き鏡開きをし、和太鼓

演奏・獅子舞・南京玉すだれ・手品・相撲甚句などの大道芸と
飴細工に餅つきという盛りだくさんの縁日風景となった。

この認定に満足することなく、熊野街道と一体化した文化資源として「心の時代」にふさわしいまちづくりに取り組みたい。



('02.11.16~17)

◇ 全国生涯学習まちづくりフェスティバル in かめおか (亀岡市)

「親が育ち、地域が育ち、そして心豊かな子どもが育つまちづくり」をテーマに、子どもの心を育てる全国大会として開催された。

('02.11.23)

◇ 「紀泉ふれあい自然塾」一斉清掃 (泉南市)

堀河ダム奥で大阪府が建設中の施設が完成し、府民参加の一斉清掃が実施された。大阪府の職員組合・ボーイスカウトなどに交じって市民会議も参加した。全国で三番目の自然塾らしい。

紀泉ふれあい自然塾の開発コンセプトは、谷あいの集落をイメージできるような全体構成とそれぞれの建物の内外で日本の昔の生活と空間を体感するとなっています。大いに活用しよう！



('02.11.30)

◇ 日本観光研究学会全国大会シンポジウム

大阪明浄大学で開催されたシンポジウムに、観光の専門家に混じって参加。これからの泉州の課題「観光振興」に関して勉強した。

('03.1.16~17)

◇ 第18回 地域づくり団体全国研修交流会参加 (岡山県)

テーマ：岡山発「地域元気宣言」に全国の地域づくり関係者が「元気あふれる夢づくり」について、それぞれの思いを語り合いました。市民会議からは、高梁市で開催の分科会「歴史と文化を生かしたまちづくり」に、北川が自費参加。

('03.1.28)

◇ 大阪府地域づくり団体協議会に加入

協議会総会の席上で、新規加入として「市民会議」が紹介され、代表西野が会の概要や活動内容を発表した。

('03.2.13~14)

◇ 龍神村「一泊研修会」

龍神村での2回目研修は、会場を民宿にし、商工会会長の切林さん(宿主)から、龍神のゲ

ソジボタル自慢を聞きながら意見交換、ポタン鍋に舌鼓を打った。

('03. 2.16)

◇ ラブリバーテンドー会議（岸和田市）

春木市民センターにおいて、「ふるさとの川を見つめよう！ 今、私たちに何ができるか」をテーマに、南泉州各地から市民が集結！前半は、「私たちの水辺活動」について4団体から発表があり、後半はテーマに沿ってのパネルディスカッションがあった。

コーディネーターに白木江都子さん（貝塚市自然遊学館）、パネラーには、泉本法子さん（春木川をよくする市民の会）、森 繁さん（牛滝川を守る包近の会）、川崎茂一さん（近木川浄化実行委員会）、福島征二さん（樫井川を清流にする会）によって故郷の川への思いと活動ぶりが発表・討論された。

('03. 2.21)

◇ ロータリークラブ“卓話”講師に代表が参加

ロータリークラブから卓話の依頼があり、代表西野が市民会議の活動報告をした。

('03. 3.16)

◇ 植樹フェスティバル（風の谷公園）

泉南の里山を大切に作る会主催の植樹フェスティバルに参加し、自分で選んだ樹木の苗を植え込み、ネームプレートを取付け、無事の成長を祈る！

友好団体との協働で、それぞれの想いが実を結ぶのは泉南市の大きな財産となるだろう！ ボランティア仲間達にエール！



('03. 3.20)

◇ 教育新聞 3月20日号

いきいき“まちづくりコーディネーター”欄に 西野代表のレポート掲載！

「どうするどうなる私たちのまち」 私が市民会議のメンバーとなったのは、PTA・婦人会などの地域活動を通して得た知識、思いをまちづくりに表現したいと思ったからです。

市民会議は6年前に発足し、「文化・歴史部会」「環境部会」「生涯学習部会」を三本柱として活動しています。 具体的には、文化・歴史部会は、住民が安らぎを感じられるまちをコンセプトとし、今なお現存している江戸時代の庄屋屋敷「山田家住宅」の保存と活用に取り組んでいます。 この住宅は、昨年、国の登録有形文化財に指定されています。

環境部会は、自然との共生をテーマに「ホテル塾」を開講し、関西空港のまち・ホテルの里づくりに挑戦しています。 生涯学習部会では、全国の生涯学習グループと交流を図り、また、フォーラムに参加することによって、まちづくりのセンスを磨いています。 部会では、今年10月4・5の両日に「関西地区生涯学習まちづくり実践交流会」の開催を予定しています。 ぜひ、「来て」「見て」泉南の秋の彩を「感じて」ください。 私たち仲間はまちを愛し、「魅力あふれるまち泉南」の実現という夢を持って活動を展開しています。 「まちづくりは夢づくり」

これからもまちの課題を発見し、実践活動と並行してシンクタンクの活動の可能な NPO でありたいと思っています。

('03. 3.21)

◇ 全国生涯学習まちづくり 第2回研究者集会 かめおか大会 (亀岡市)

- ・ 総合テーマ「学校を支援する生涯学習社会をどうつくるのか」

全国各地での生涯学習を基盤としたまちづくりの先進的事例を知り、今後のまちづくりを進めていく上で、どのような課題があるのか、問題点はどこにあるのかを臨床的に研究することを趣旨に、生涯学習まちづくりに関わる研究者、生涯学習・社会教育行政関係者、民間生涯学習関係者及び団体、まちづくりコーディネーターを対象に開催され参加した。

('03. 3.29 ~ 7. 5)

◇ 第2期 「せんなんホテル塾」

- ・ 第2期ホテル塾、開講日に早速、実態調査を行った。
- ・ 2回目も、学習会と実態調査
- ・ 3回目も、実態調査
- ・ 4回目は、ホテル観賞のタベ 第2回「音と光のページェント」開催 (後記)
- ・ 5回目は、ヒメホテルサミットに参加。(後記)

□ 7年目 -2003年 (平成 15年) -

('03. 4.19)

◇ 紀泉わいわい村「開村式」

堀河ダム奥に工事中だった“紀泉ふれあい自然塾”が竣工し、YMCA委託による「紀泉わいわい村」としてオープン、太田知事を迎えて開村式があり、市民会議代表も参列した。

('03. 4.29)

◇ ABCまつり「一日ホテル資料館」

文化ホールロビーでの展示コーナーで、ホテルの幼虫を持ち込みホテルの一生と市民会議の環境への取り組みをPRした。

※写真右は、ホテルの幼虫がカワニナを捕食中の貴重なシーンを森広が堀河川で撮影。



('03. 4.30)

◇ 泉佐野市JC公開例会「合併の是非」にパネラー派遣

泉の森ホールで開催された「みんなで考えよう合併のメリット」に、泉南市住民代表として市民会議の川島が、3市2町の住民とのパネルディスカッションにパネラーとして参加。

市財政悪化の中での地方分権を進める為には、行政組織のスリム化と能力向上が求められています。自分のまちの行く末は、他人任せにせず、家族で、一度考えてみましょう。

('03. 5.31)

◇ 泉州南広域行政研究会シンポジウム参加

泉南市文化ホールで開催されたシンポジウムは、泉佐野市・泉南市・阪南市・田尻町・岬町の各首長による、合併と地方分権・自立への思いが披露された。

('03. 6. 7)

◇ ホタル観賞の夕べ 第 2 回「音と光のページェント」

昨年に引き続いて開催した音と光のページェントは、メンバー苦心の舞台構成と、里山を大切に作る会創作による竹筒の灯りが会場の雰囲気盛り上げる黄昏色の頃、ホタルメイトの応援で「ニィハオコンサート」が始まった。十三堂楽団による中国民族音楽が2～3曲披露された頃には、小雨も上がり泉南市少年少女合唱団と昔のうたを歌う会を交えた、山村原風景の中でのコンサートは、最後に全員で「ふるさと」を合唱し、人々の心に郷愁を誘うことができた。



二部のホタル観賞は、田中先生のプロジェクターを使った生態解説が軽妙に進められた後、堀河川の川べり観察をした。

昨年より1週間早目の開催がよかったのか、100匹程度の飛翔が確認でき、その光跡に歓声があがっていた。

その夜は応援スタッフの宿泊体験（夜なべ談義）、十三堂楽団の飛び入り演奏も入り盛り上がりました。

当日の様子は、りんくうTVで放映。（参加者：700名）



('03. 6.13)

◇ ロータリークラブから感謝状！

市民会議代表として、子どもに“夢”を！ 若者に“誇り”を！ お年寄りに“生きがい”を！ をスローガンに、多岐に亘るボランティア活動の実践に対して、西野が感謝状を頂いた。

('03. 7. 5)

◇ 第7回「ヒメボタルサミット」(兵庫県山南町)

山南町では「漢方の里さんなん」として町を挙げて、「地域興し・人起し」に取り組んでいる中で、ホタルの保護に取組む強力なリーダー達がいること、地域の理解と協力があることに感心。

('03. 7.22)

◇ 泉南市生涯学習まちづくり事業実行委員会設立総会

文部科学省の平成 15 年度「生涯学習まちづくり支援事業」に応募した事業計画の決定を受けて、各事業の関係者（市民・行政・大学）を集めて総会を開催、この案件を持ち込んだ市民

会議からは3名の委員が参画。また事業名称が「泉南ルネッサンスカレッジ」と決まり、カレッジには、文化歴史学科（泉南風土記・泉南民族座・泉南太鼓・泉南案内人）、国内外交流学科（泉南ハイカウ学・泉南国際人・泉南大使・ハイカウ案内板）、自然学科（泉南仕掛人・泉南うまいもん学・泉南自然人・泉南ふるさと宿）があり、泉南ブランドづくりを目標に、9月から3月にかけて開催することになった。

（'03.8.28～29）

◇ 第19回地域づくり団体全国研修交流大会（秋田県）

日本海1分科会「鳥海山コース」象潟地区

象潟分科会に市民会議から3名参加させていただきました。“奥の細道”とことん探求「象潟大発見」のテーマのもと、私たちは鳥海山コースに参加することにしました。

まず訪れたのは、大地震のため陸地に島が点在しているという九十九島とその要である蛸満寺。そして次の見学の天然記念物「中島台獅子ヶ原」の散策では、森林浴を楽しみながら大自然を満喫してきました。特に感激したのは、湧水池に生息している「鳥海まりも」と「変形ブナ」の群生で地球の営みの神秘さには心奪われ、象潟は自然の雄大さと俳聖松尾芭蕉が「奥の細道」で最後に訪れたという歴史と文化の薫りあふれたまちでした。

体験学習の後の分科会交流会は、100人の参加者が集う中、象潟町無形文化財「大森歌舞伎」のアトラクションなど工夫を凝らして迎えて頂きました。又その後の夜なベトークにも参加しましたが、全体的に参加者同士の意見交換の場が少なく、ややおとなしい分科会だったように感じられ、もっと膝を交えての活発な情報交換の場を期待していたのですがその点は少し残念に思います。翌日はドンパン節で有名な中仙町での全体研修会。第一部の地域づくり談義では、仮装した出演者のユーモアたっぷりの発言に会場は終始大喝采。

大喜利の中身を一部ご披露しますと、

～ 地域づくりとかけて、何ととく？ ～

- ・パチンコととく、その心は、はまったらやめられない
- ・オーケストラととく、その心は、それぞれいろんな味を出している
- ・メダカの学校ととく、その心は、誰が生徒か先生か

最後のメニュー全体交流会では、なまはげの出現や伝統芸能のオンパレードで元気いっぱいの歓迎を受け、また昼食「麺自慢」のコーナーでは、秋田の食文化にも触れることができ、まち全体で迎えていただけましたこと有難く感謝しています。

秋田は温泉の宝庫であり、世界遺産の白神山地、田沢湖など原始の生命力あふれたまちです。また伝統芸能も地域や歴史風土に深く根ざし、地域づくりのカギになっているように実感しました。何よりこの大会では主催者自身が自ら楽しみ、生き生きと輝いていたように感じます。こうした人の意気込みが地域を支え、元気にし発展させているのでしょう。

他府県に出向いてみると我がまちの足りない部分がよく見えてきますし、また反対に中に行くと気づかなかった良さも見えてくることもあります。

私のまちには、秋田のように全国的に有名な観光資源はないけれど「くすんだ玉も磨けば光

る」今輝いていなくても、磨いてぜひ ONLY ONE CITY を創造していきたく思います。
今回、秋田大会に参加して、まちづくりのヒントとエールをいただき、地域づくりへの意欲を取り戻した気がします。 秋田の皆様お疲れ様でした。感謝！（報告：西野）

（'03. 9. ）

◇ 泉南市生涯学習まちづくり事業実行委員会 （委員に3名が特命参加）

（'03. 9.22~23）

◇ 龍神村「一泊研修会」

10月の第1回“泉南楽会”鼎談へ出演の龍神村村長に挨拶を兼ねて、表敬訪問。研修会は、同日に市民会議が主管する“関西地区生涯学習まちづくり実践交流会”に参加してくれる龍神の自然保護活動家から報告を聞き、意見交換をした。

（'03.10. 4~5）

◇ 第1回 泉南“楽”会（兼）第6回関西地区生涯学習まちづくり実践交流会

第6回関西地区生涯学習まちづくり実践交流会は、市民会議の主管で、泉南市で展開されている「文部科学省生涯学習まちづくりモデル支援事業」のトッププログラムとして 第1回 泉南“楽”会とネーミングし共同事業として開催された。



一日目の 一部は ◇まちづくり子どもサミットが「こんなまちになったらいいな！」をテーマに、泉州の生き物博士“田中正視”先生の司会で、市内11小学校児童代表をパネラーに迎え、子ども目線の直言に大人達はうなずくばかりであった。

昼食後のロビーでは、アンサンブルBUNSによる♪ランチタイムコンサートに、しばし心を癒



して頂きました。二部は、コメンテーターに、向井通彦（泉南市長）・古久保治一（龍神村村長）・中尾清（大阪明浄大学助教授）三氏を迎えての ◇インタビューダイアログが、今西幸蔵（京都学園大学教授）氏のコーディネートで「交流で拓くまちづく

り」をテーマに展開された。 続く分科会は、関西各地のまちづくり活動家9名による事例発表が、あいびあ泉南に200名の活動家を集め、三会場に分かれて、第一分科会「文化・歴史」第二分科会「交流」、第三分科会「自然・環境」をそれぞれテーマに熱心に展開された。 終了後の全体会での質疑応答でその成果を確認した。 分科会終了後は、紀泉わいわい村に会場を移して、交流会が開かれ、夜更けまで楽しい意見交換で有意義な大会となった。

また二日目の ◇エクスカージョンは、関西空港2期工事見学の後、新家の「山田家住宅」で地元のまつり寿司を提供し、ふるさとの味を賞味いただいた。この日、開催された「やぐらパレード」見学にも、30名の参加者がありました。



皆様お疲れさまでした、そして、ありがとうございました。

('03.10.1 ~)

◇ ホタル（カワニナ）餌やり開始（月1ペース）

ホタルを増やすには、ホタルの餌となるカワニナの増殖が必須という訳で、カワニナの餌となる野菜（キャベツが主）の投棄を堀河川で開始した。（担当：杉山^o、尾屋）



('03.12.13)

◇ “泉南太鼓の創設”勉強会

新たな無形文化財づくりとして取り組む「和太鼓チーム」の講師に選んだ鼓聖泉（和泉市）から、チーム育成についてレクチャーを受けた。

('04. 1.18 ~ 3.14)

◇ 第1期 泉南太鼓塾「基礎練習」 （まちづくりモデル事業）

民・官・学の三者で取組む「泉南ルネッサンスカレッジ」で、市民会議が主担する“泉南太鼓塾”の基礎練習を開始。

初回は車の中古タイヤを洗い、タイヤ叩きからスタート。参加メンバーは、パイオニアの苦勞を体験することになった。いい人生経験となるだろう。



('04. 2.13~14)

◇ 第20回 地域づくり団体全国研修交流大会（鹿児島県）

テーマ「ぎばっど！！変ゆっど・・・未来を！～“南ふる”が考える地域づくりのかたち～」に全国の地域づくり関係者が、地域づくりについて話し合い・交流を深めるために集まりました。ディスカッションは話し合いであって、果し合いではない。時として決闘の場になるが、相互交流の中から、謙虚に学びあって更に友情を深めることの大切さを学んだ。

また、イベントの意義は、「人を集め・人を楽しませ・人を学ばせる」ことである。そして、地域づくりに携わっていて、冒険・失敗・誹謗中傷などがつきまとい、前例がない・法令がない・予算がない等の壁に、ぶち当たるが、これは知恵がない・やる気がない・敵をつくりたくないということであって、これに怯まずイノベーションに挑戦すべしとの地域づくり団体全国協議会会長談に関して、参加者と意見交換したが、そのような事は現実には体験しているが、みんな果敢にチャレンジしていた。

また、南ふる協では地域づくり構想が数回に亘り練り直され、実現化する為に行動組織が動き出した。民間人の地域コーディネーターが中心的役割を担っているとの報告があった。泉南ルネッサンスカレッジとよく似た、南ふる大学があり、そこで学んだリーダー達が地域に還元していく仕組みも、自助・共助・公助のあり方を行政との協働で考えながら、よく機能し

ているようであった。

第8分科会（曾於ブロック）に参加したが、生産者の営農継続悩み、消費者の食の安全への危惧と、共通する地球環境問題については、立場は違えど一人の地球人として自然と人間が共存していく為には、今なにが必要なのかについて多くの人が共通認識を持てたことに、たいへん意義のある分科会であった。20世紀、男が地球をぶち壊してきた、21世紀、女が地球を甦らせる的発言があり頼もしい女性がいるもんだと拍手を送った。

全体を通して、主催者の温かいもてなしの心が感じられる楽しい大会であり、参加者と大いに交流が図れた。何と云っても、全体交流会の盛り上がりようは、鹿児島人のもてなしの心と焼酎のせいだけではなく、地域づくりという共通の目的に燃える人のベクトルがあっていたからと考える。

たった一度の人生「もっと！もっと！きらきらしてみませんか！」という、「澤 環」さんの歌のようにそこに住む人々が輝いている地域は、住んでよかった・訪ねてよかった場所に違いなし、そんな地域づくりの為に、市民会議が一石を投じなければとの思いを強くして会場を後にした。このような機会を与えていただいた人に、ありがとう！このようなイベントを準備していただいた人にも、ありがとう！（報告：森広）

（'04. 3.14）

◇ 「山田家住宅」一般公開記念「和太鼓 Festival」

国の登録有形文化財に認定された、旧庄屋屋敷「山田家住宅」の一般公開を記念して開催。

小春日和の好天に恵まれた中庭で、和泉市の和太鼓チーム“鼓聖泉”をゲストに迎えた。午前中は「泉南太鼓塾」のワークショップとして、1月から受講している塾生20名の和太鼓教室を開催。午後はまず、泉南塾が成果発表として「弥生の風」を披露し、続いて“鼓聖泉”によるコンサートが開演。



迫力ある太鼓の響きと、息も乱さぬチームワークに中庭をいっぱい埋めた観衆から拍手喝采があり元気を貰ったと涙して喜んで頂いた初老の女性が印象的だった。「山田家住宅」の一般公開は、12時～16時半まであり、屋敷の内外は一日中の賑わいであった。美味しい“ぜんざい”も振る舞われました。

□8年目 -2004年（平成16年）-

（'04. 4.1）

◇ 「山田家住宅」保存活用協議会 誕生！

登録有形文化財「山田家住宅」を保存・活用しながら、大切に後世に伝えていくために、市民会議が発起人となり、地元区をはじめ多くの賛同を得て、協議会が設立されました。

（'04. 4.4）

◇ 泉州南合併協議会新市まちづくり懇談会委員

3市（泉佐野市・泉南市・阪南市）2町（田尻町・岬町）による、泉州南合併協議会から合併した場合の新市の将来像を示す「新市まちづくり計画」に住民の想いを盛り込もうと「新市まちづくり懇談会」が特命と公募で選ばれた21人の住民で組織されました。市民会議から特命（山下）1名、公募（森広）1名が参加。阪南市役所で6回に亘って議論を重ねました。

（'04.5.8）

◇ 第8回「ヒメボタルサミット」（箕面市）

参加3回目となった今回、市民会議が推進している「ホタルの里づくり」について、今までの取組をプロジェクターを使って、発表した。このサミットはヒメボタルに特化した集まりであり、泉南のように、ゲンジボタルもヘイケボタルもという地域は非常に希少なことが理解できた。（南）



（'04.5.14 ～ 11.20）

◇ 第3期「せんなんホタル塾」（子どもゆめ基金助成事業）

- ・ 3期は、子どもゆめ基金の助成を受けて結成した「子どもホタル探検隊」（雄信小学校・東小学校参加）との合同事業、まず男神社境内でのヒメボタル実態調査でスタート。
- ・ 2回目は、先進地視察として、滋賀県山東町のホタルまつりを視察
- ・ 3回目は、河川状況調査として、新家川・柳谷川に入る。
- ・ 4回目は、環境問題講座
- ・ 5回目は、河川水質調査として、男里川・金熊寺川の水生植物、ホタル生息環境を調査
- ・ 6回目は、今後の取組みについて懇談会を実施。

（'04.5.14）

◇ ロータリークラブから再度卓話に呼ばれる

二回目の卓話に呼ばれ、メンバーの森広が「思いやりのおすそ分け」と題し、スピーチさせていただきました。

（'04.5.27）

◇ 泉南市生涯学習まちづくり事業実行委員会 幹事会

文部科学省の平成16年度「生涯学習まちづくり支援事業」に継続応募した事業計画の内示を受けて、監事会を開催、今年度は昨年度の成果を織り込んだ事業を展開することになった。観光・交流、環境・自然、健康・食文化があり、昨年のルネッサンスカレッジに連携しながら進めることになった。集大成は3月にまちづくりフェスティバルとして開催、市民会議からは2名が幹事として参加、引き続き「泉南太鼓塾」と「ほたるの里づくり」を担当する。

（'04.6.1）

◇ 泉州南合併協議会へ新市まちづくり懇談会から提言書

3市（泉佐野市・泉南市・阪南市）2町（田尻町・岬町）による、泉州南合併協議会から合併した場合の新市の将来像を示す「新市まちづくり計画」に住民の想いを盛り込もうと「新市まちづくり懇談会」が公募で選ばれた21人の住民で組織・議論されました。（前記）

■座長挨拶：「新市まちづくり懇談会」は、泉州南合併協議会で策定が進められている「新市まちづくり計画」に住民の声を反映させるため、3市2町の住民によって組織されました。私たちは、6回にわたる会議を通じて、3市2町の現状と課題を把握し、住民の視点から、新市への思いや新市将来ビジョン及びその具体的な方策などについて話し合いました。

限られた時間の中での話し合いでしたので、十分に議論を深めることができなかつたかもしれませんが、懇談会委員の一人ひとりが新市に対する思いについて意見を出し合えたと感じております。ここにその内容をまとめ、ご提言いたします。提言書の趣旨をご理解いただき、新市まちづくり計画にぜひ反映していただきたいことはもとより、合併で誕生するであろう新市が、市民にとってよりよく輝けるまちとなることを期待してやみません。（森広）

（'04.6.12）

◇ ホテル観賞の夕べ 第3回「音と光のページェント」

午後3時に開催と決定したものの、5時頃から雨模様となったが、6時には観客も集まりだし、一部は、雨中のコンサートとなった。湿気が多い中での弦楽器の調子に苦労しながら、GRUPO ARCADIAによる“アンデスの風”コンサートは、素晴らしい演奏であった、いい条件で再度聴いてみたい。二部開始時は本降りとなり、ステージ上での“ホテル解説”となったが、ホテル観賞時には雨も止んで、昨年より多いゲンジボタルの飛翔を楽しんでいただけた。

この事業も3年目となり、市民にとって初夏の風物詩として認知され、併せて環境保全の大切さを理解していただけた。

（'04.6.26）

◇ 出版記念パーティ企画運営

市民会議顧問、中尾清先生(大阪明浄大学教授)の「観光概論講義」出版にあたり、当会の南が世話人代表となり、会場「赤レンガRUI」で盛大に記念パーティを開催した。

（'04.7.11 ~ 12.26）

◇ 第2期 泉南太鼓塾「基礎練習」(子どもゆめ基金助成事業)

12回に亘って鼓聖泉の指導を仰ぎ、鼓聖泉太鼓道場と泉南市体育館を会場に約26名の塾生が、熱心に訓練を重ねた結果「弥生の風」を演奏できるところまで到達できた。



（'04.7.24）

◇ NHK 世界遺産シンポジウム（大阪）

NHK ホールで開催された、世界遺産“熊野三山と紀伊山地の霊場”に6名参加。

（'04.7.29 ~ '05.3.12）

◇ 子どもホタル探検隊 始動！（子どもゆめ基金助成事業）

- ・ 雄信小学校と東小学校参加による、子どもホタル探検隊の活動打ち合わせ会議でスタート
- ・ 2回目は、紀泉わいわい村で、堀河川のカワナ生息調査とホタル学習。
- ・ 3回目は、男神社のオカチョウガイ調査とホタル学習。
- ・ 4回目は、河川調査として、男里川と金熊寺川で水生生物・ホタルの生息環境を調査。
- ・ 5回目は、生息情報の調査
- ・ 6回目は、ホタルマップづくりを樽井公民館で開催

（'04. 8.21~22）

◇ 第7回関西地区生涯学習まちづくり実践交流会（甲賀町）

8月21日~22日に滋賀県で開催された。第7回関西地区生涯学習実践交流会・甲賀大会に市民会議から5名のメンバーが参加しました。開催地の甲賀町は忍者と薬の町、そして自然宝庫の町で、また合併を目前に控え、希望にあふれているように見えました。

会場は、みどり豊かな空間“鹿深夢”（かふか）の森の中に立つ創建館でした。

一日目は、力強い“すいりょう太鼓”でのオープニングに続き、滋賀大学住岡英毅副学長ご自身のまちづくり参加体験を交えた基調講演で、ユーモアたっぷりなお話には思わず引き込まれてしまいました。その後4グループに分かれての分科会では、まちづくりの着眼点、手法などの事例発表と活発な意見交換が行われ、わがまちの地域資源や特性を把握することの大切さを再認識しました。

二日目は全体会で、一日目に行われた各分科会の報告と滋賀大学生涯学習研究センター神部純一助教授のコーディネートによる「生涯学習とまちづくりの関係」に視点を当てたパネルディスカッションが行われ、この二日間の実践交流会は、私自身常に問題として抱えている「新しい地域の創造」に向けて数々のヒントを与えてくれた、充実した学習会となりました。現在、私たち市民会議が取り組んでいる、豊かな自然や歴史遺産・歴史建造物を守る、また文化を育むまちづくりはまさにそこに住んでいる地域住民の意識とパワーが大きな原動力だと思います。皆さま一緒にまちづくり活動をしませんか！

＝ 誇れるまちの創造が一人ひとりの人生の創造につながります ＝ （報告：西野）

（'04. 9. 3~4）

◇ 第21回 地域づくり団体全国研修交流大会（石川県）

第16分科会「歴史と町なみ」小松市

私は、泉南市でまちづくりに取り組んでいる市民グループ「SENNAN まちづくり市民会議」のメンバーです。10年位前、まちづくりをテーマとしたシンポジウムに初めて参加したとき、多くの方がまちづくりに取り組んでいるのを目の当たりにして感動し、まちづくりに関心をもつようになりました。私たちは、主に「文化歴史を活かしたまちづくり」「ホタルと共生できるまちづくり」「和太鼓グループの育成」「メンバー自身の生涯学習」の四つのテーマに取り組んでいます。この度、幸いにも9月3~4日に石川県で開催された大会に参加する機会をいただき、多くの方と交流し、先進事例を学ぶことができたことに感謝しています。3日は全体会が能登 穴水町「のとふれあい文化センター」で開催されました。会場までの道中では、一人ひ

とり自己紹介をしました。全国各地から民間や行政で様々な活動をされていることを知り、これがこの大会の魅力だと感じました。

全体会終了後、17の分科会に分かれました。私は市民会議の中でも文化歴史を担当し以前から泉南市内を通る、熊野街道を活かしたまちづくりができないものかと考えていたこともあり「歴史と町なみ」というテーマの第16分科会に参加させていただきました。

分科会には、町家保存に取り組んでいる「こまつ町家再生を考える会」の方が多く参加されており実際に町家に住んでいる方、地元の建築士の方、金沢大学の学者の方、都市計画課の職員の方といった多方面の分野の方が参加されていました。その方々と全国から集まった地域づくりに取り組む民間・行政関係者が膝を突き合せてお互いの活動内容を話し合い、とても楽しい時間を過ごすことができました。

翌日は、小松市の町並み保存の取組みについて、市民・学者・専門家（建築士）・行政の方がパネラーとなり、パネルディスカッションが行われました。その中で古い町家を保存するネックは、生活が不便であることだそうです。また、住民にも温度差があることも問題です。このことは分科会に参加されていたある町の方からも、活動の中で住民同士の深刻な対立があったことが報告されました。小松市の場合は、住民と行政だけでなく、大学・専門家（建築士）も協働して取り組まれている為、今後大きな成果を収めていくのではないかと思います。

私たちは「紀伊山地の霊場とその参詣道」が世界遺産に登録されたこともあり、泉南市内を通る熊野街道とか宿場町（信達宿）であった面影が残る町並みを、保存し活用できないかと考えています。しかし、行政だけ、住民だけでは難しいのではと感じます。

古い建物を保存する意義や価値は何なのかといった基本的なことを、住民に対して如何に説明し納得してもらうか、現代の生活と調和させながら如何に保存していくかといった難しい課題には、学識者や建築士といった専門家が果たす役割は大きいのではないかと感じました。昼食は、蔵を改造した建物でいただきました。これも町家保存の一つの実例だと思います。それから、地元の観光ボランティアガイドの方々の案内で博物館・茶室・町家が残る町並みを見学しました。町家が残っている通りは3つくらいあり、現在でもよく保存されている様子が伺われました。私達の活動はまだ緒についたばかりで、小松市には遠く及びませんが、小松市を初め多くの事例を参考にしながら、少しずつ進めていければと思っています。（報告：北川）

（'04.10.17）

◇ イオン植樹祭

臨海部にオープンした商業施設の、環境整備の一環として開催された植樹祭に、6名が参加し、市内緑化に協力した。また、泉南太鼓塾が開会セレモニーのオープニング太鼓を披露した。

（'04.10.30）

◇ 第1回「熊野街道シンポジウム」

一部：「歴史ウォッチング」が新家駅に40名の参加を得て小雨の中をスタート。旧庄屋敷～樫井古戦場跡～厩戸王子跡～本陣跡～真如寺～長慶寺～海会寺跡を、泉南案内人の会のボランティアガイドでウォッチング。



途中の信達宿に突如誕生した昔懐かしい茶店（この日の為に市民会議が準備）に立ち寄り、団子と抹茶を楽しんで頂いた。

二部：「熊野街道シンポジウム」は古代史博物館大会議室一杯の参加者で、基調講演に笹原司朗（国交省認定の観光カリスマ）さんをお迎えして「黒壁スクエアによる長浜の再生」と題し、熱く示唆に富んだ話をしていた

だった。続いて街道筋住民を代表して梶本昌弘さん（藤棚の館当主）、上林 広さん（ライオンズクラブ会長）、角谷隆さん（本陣跡当主）をパネラーに、中尾 清さん（大阪明浄大学教授）のコーディネートで「熊野街道まちおこし」と題して、歴史保存の意義、住人の誇り、文化継承、歴史的所蔵物の公開・維持管理の苦労話などに議論が白熱、会場からも保存活用へのエールが贈られた。



（'04.11.12 ～ 12.26）

◇ ホームページ作成講座受講（地域づくり助成）

地域づくり団体協議会の助成を受け、ホームページ作成講座を受講、松田、三好、森広の3名が参加しスキルアップ。その後、ホームページをリニューアルした。

（'05. 1.16 ～ 2.26）

◇ 第3期 泉南太鼓塾「基礎練習」（まちづくりモデル事業）

1月16日～2月26日の短期間の中、7回に亘って、鼓聖泉の指導を仰ぎ、継続メンバーで頑張ったその成果を、3月6日開催の第2回 泉南“楽”会で和泉市の4団体と市内2団体との響演で披露した。（当日は、泉州そーりゃ踊り子隊とのコラボも披露）

（'05. 2.26～27）

◇ 和太鼓松村組講習会（まちづくりモデル事業）

毎年京都で開催のプロチームの講習会に、太鼓塾生2名（1名は市民会議の森広）が参加した。参加者は経験者が大勢を占め、ど素人の森広はチンプンカンプンで苦労したらしい。

（'05. 3. 6）

◇ 「まちづくりフェスティバル」兼 第2回 泉南楽会

文部科学省支援「まちづくりモデル事業」の成果発表楽会が文化ホールで、幼稚園児・泉南太鼓のオープニング太鼓で開幕。

一部は、NHK文化センター長（元NHKアナウンサー）野島正興さんによる基調講演「ふるさとは言葉の泉」と題し、方言文化の大切さを講演頂いた。

二部は、まちづくり談義「泉南再発見」が、まちづくり事業に関わった、北山靖夫（案内人の会）・澤 成晃（泉南の里山を大



切にする会)・田中正視(泉南高校教諭)・中村正明(教育委員会)・西野節子(市民会議)の5人により、成果発表と泉南への熱い想いが披歴された。

三部は、「ドーンと和太鼓の響演！」として、地元から3団体、和泉市から4団体の参加で、迫力一杯の演奏が場内に響き渡り、泉州そーりゃよさこいチームの特別出演もあって、元気エネルギーを持ち帰って頂いた。



□9年目 -2005年(平成17年)-

(‘05.4.1)

◇ 和太鼓集団「泉南太鼓塾」誕生

文科省のまちづくり助成金で育成してきた、泉南太鼓塾の支援講座が3月で終了。直後、受講者の熱い想いで集団として継続活動することが決まった。初代代表に起案者の森広(市民会議)が就任し、自立活動することになった。お祝いに、市民会議から締め太鼓を4台寄贈、今後の活動(泉南の応援団)を支援していくことになった。

(‘05.4.23~28)

◇ 藤まつり・花房摘みボランティア応援

我がまち泉南“春のビッグイベント”となった、藤まつりに今年からボランティアとして、お手伝いの仲間入りをした。想像を遥かに超える人出、よくそこまで個人レベルでやってこられたことに、頭が下がる思いでいい汗をかきました。

(‘05.5.18)

◇ ホタルマップ小学校へ配付(2校)

3月12日に子ども達と作成したマップ原案が、印刷業者と数回の協議を経て完成。「せんなんホタルマップ」を参加2校に配布。

(‘05.6.1)

◇ ホタルの棲み家の観察会「プレスリリース」発信!

予ねてから情報発信の重要性を議論してきたが、四大新聞向けに初のプレスリリースを発信した。～朝日・産経・毎日・読売新聞の関空支局宛て～

■ 毎日新聞に「ホタル育て、環境守ろう」と(6.10)おおさか版に掲載された!

(‘05.6.10)

◇ ホタルの棲み家の観察会(泉南市)

岸和田自然博物館との共催で、新家川上流で開催された。大阪市内からの参加もあり、子どもたちは、川に入って話を聞き、夕闇迫る頃から飛翔し出したホタルにご満悦でした。ここ新家川上流は、岸和田市相川地区（後記）とよく似た地形と環境でホタル保護絶好の場所だ。



（'05.6.11）

◇ ホタル観賞の夕べ 第4回「音と光のページェント」

今年から、市民会議の手を離れ、泉南市ABC委員会の主催となった。

一部：黄昏コンサート（琵琶：渡辺幸子・篠笛：米田ミユキ）

二部：堀河川のゲンジボタル観賞会（解説：田中正視）

～～ 「音と光のページェント」開催継続への想い！ ～～

- 1、 このホタルのイベントは、泉南の山から海に至る豊かな自然環境を守り、未来に残すという環境保全を啓発する為に回を重ねている。
- 2、 昨年まではせんなんまちづくり市民会議とホタルメイトを中心に、泉南の里山を大切に作る会などの協力で開催、今回からはABC委員会全体事業として引き継ぐことになった。
- 3、 泉南市にはヒメボタル・ゲンジボタル・ハイケボタルという3種類のホタルが生息している大阪府下では非常に貴重な土地。
- 4、 ホタルは環境のバロメーターといわれる。無農薬・減農薬栽培の普及で、各地でホタルが復活しています。泉南市もご多分にもれず増えている。
- 5、 家庭で出来る環境保全は、排出されるごみ・排水の減量と、汚染物質を出さないこと。これは川と海の環境保全に大切なこと。
- 6、 泉南市をホタルの里にしたいという思い入れの拠点が、ここ紀泉わいわい村。ホタルを増やすための活動がホタルメイトの皆さんの力で続けられている。

（'05.6.16）

◇ 相川ホタルまつり視察（岸和田市）

泉州地域で最大規模のホタルまつりを視察、地元保護団体からここに至った経緯を聞いた。ホタルも多いが、その整備された散策道路（国の補助金）の立派さは、うらやましい限り。

（'05.7.1）

◇ ビオトープづくり挑戦！開始！

篤志農家から「自由に使いなよ！」と借り受けた田んぼを、ハイケボタル用のビオトープに変身させようと、呼びかけに応じた13名の仲間と、すでに刈り取られた枯れ草を、集めて燃やす作業2時間半、トラクター（地元の農家さん）で土を耕す頃には小雨模様となり一日の作業を終えた。

※ここでいうビオトープとは、多様な水性生物が共存できる空間・池をいいます。





('05. 7.22)

◇ 景観セミナー（泉佐野市）

緑を生かす都市景観について、日根野の酒蔵「北庄司」ホールで受講。

('05. 8. 9)

◇ 日本経済新聞夕刊に ビオトープ挑戦 掲載！

日本経済新聞（夕刊）でシリーズ掲載している拝啓こんな日々です よみがえれ自然 26 話に、“ホタル舞う里、休耕田に託す”として取り上げられた。（以下、原文掲載）

大阪府泉南市内を流れる新家川。6月上旬の夜、上流の小さな橋のそばで5、6匹のヘイケボタルが一秒ほどの間隔で明滅しながら飛び回り始めた。ゲンジボタルのゆっくりした光り方とは明らかに違う。環境保全などに取り組む市民団体「SENNAN まちづくり市民会議」が開いた観察会。会議のメンバーや大阪府下から集まった約40人とともに森広代表(65)は、励まされる思いでその光を見詰めた。ヘイケボタルは主に水田に生息する身近な昆虫だった。しかし、最近は農地の宅地化や農薬の使用などで全国的に激減した。「自然に近い形でヘイケボタルが増えるような工夫ができないか」森広さんは四月の市民会議総会で思い切って提案した。メンバーの食いつきは良かった。水田を利用して生息しやすい環境を再現するビオトープづくりに着手することで意見が一致した。観察会はビオトープ実現へのステップになった。観察会の場所近くの広さ約350㎡の休耕田は、森広さんが25年前、泉南市に転居したころ、子どもを連れてホタルの乱舞を見に行った場所だった。観察会に休耕田の地主を知る農家が参加、つてを頼って土地を無償で借りることができた。

ホタルが競演を繰り広げた空間は、大人の背丈ほどの雑草が生い茂る荒地地になっていた。森広さんら市民会議のメンバーと有志は、週末を草刈りに費やした。趣旨に賛同した地元農家がトラクターに乗って駆け付けてくれ、「地元の人たちも我々と同じぐらい思い入れが強く、参加者全員からホタルが乱舞する里を取り戻したい、という意気込みが伝わった」と森広さん。

これからはビオトープ内をあぜ道で数区画に区切ったり、水生植物を植栽する作業に移る。ヘイケボタルの生態は研究が進んでおらず、生息しやすい環境は手探りでつくり上げていかなければならない。

「ホタルは環境の悪化に敏感な生き物で、ホタルがすみやすいまちは人間も暮らしやすいはず」と森広さん。「ホタルの舞う暮らしやすい里として、みんなが誇りをもてれば」思いは広がるばかりだ。



('05.8.27 ~ '06.4.15)

◇ 第4期 「せんなんホテル塾」

- 今期のホテル塾は、ビオトープづくり挑戦！の一環として、ビオトープ先進地視察に出かけた。堺市大泉緑地内のビオトープでのワークショップで童心に帰りスタート。
- 2回目は、仮称「新家ビオトープ1号池」の整地作業をやる。
- 3回目は、泉南市の環境白書、市役所職員からの出前講義を受ける。①河川水質測定 ②土壌中ダイオキシン類濃度調査 ③ゴルフ場農薬汚染検査 ④二酸化窒素濃度調査 ⑤環境騒音等測定調査について。
- 4回目は、大阪湾の環境白書と見学、岬町の水産試験場を訪ね、大阪湾環境の現況と、保護に取り組んでいる水産資源の説明を受け、場内の見学をした。
- 5回目は、ビオトープは今？ 観察会を実施。
- 6回目は、保護看板製作、古材を使った看板をつくり、ペンキ塗りまで完了（後記）
- 7回目は、三田市で開催のヒメホテルサミットに参加、パネル展示で活動報告（後記）

('05.10.25)

◇ 地域づくり団体協議会「講演会」(大阪市)

「岸和田市自治基本条例～市民自治都市の実現に向けて～」と題して、条例案づくりを市民に委ねた・・・どうやって議論の合意形成に至ったのか・・・今後の課題・・・など。

('05.11.19)

◇ 祝！ 第100回 定例会 開催

市民会議誕生以来、月1回のペースで開催してきた定例会が、記念すべき100回目を迎えた席上で、メンバー寄せ書きの感謝状を、中興の祖：代表西野に贈った。

('05.12.4)

◇ 第2回「熊野街道ルネッサンス」(兼 第3回 泉南楽会)

熊野街道ルネッサンスは、市民会議が世界遺産「熊野三山参詣道」に続く道が市内を縦断していることに着目し、「まちおこし」の取組みとしてつけたタイトルです。

昨年に続いて、第2回「熊野街道シンポジウム」を、あいびあ泉南で開催しました。特に今回は、大阪再発見プロジェクト主催の「熊野街道ウォーク」が12月11日に泉南市で開催されることにタイアップして、その前夜祭と位置づけ三部構成で開催。 ・一部は、基調講演「世界遺産“日本の宝から世界の宝へ”」を中尾 清さん(大阪明浄大学教授)から、宝探し・宝磨き～情報発信についての講演がありました。 ・二部は、まちづくり談義「歴史文化の保全とまちづくり」が、パネラーに梶本昌弘さん(藤棚の館当主)、山田洋二さん(登録文化財山田家当主)、榎木 潤さん(街道沿い住民・ライオンズクラブ会長)、殿谷忠正さん(まごころしょうたくんの会代表)、今中未余子さん(大阪再発見プロジェクト委員)を迎え、代表の森広がコーディネーターを務めました。 地元旧跡の当主・沿道住民・事業者・観





光事業者 それぞれの立場で、居住・保存・活用について未来志向で本音の話が聞けて、まちづくりの参考になりました。

・三部は、～遙かなるアンデスから熊野へ～ コンサートが、GRUPO ARCADIA によって開催されました。ARCADIA は、第3回音と光のページェントに雨中出演していただいたグループ、今回は室内でたっぷりとフォルクローレの真髓を堪能させて頂きました。リーダーはチャランゴのマエストロ渡部勝喜さん

日本トップバンドの音色に、癒されましたね！

(‘05.12.11)

◇ 熊野街道ウォーク 「熊野詣ゆかりの地を歩く3回目」

大阪再発見プログラム実行委員会主催の「熊野街道ウォーク」が寒風の中開催され、大阪市内方面から 900 名の歴史街道ウォーカーが、訪れてくれました。



歓迎イベントとして樽井駅頭では泉南太鼓塾による「歓迎太鼓」に送られ、市内 12 キロの街道歩きがスタート。

信達牧野、藤の梶本家ではご当主を始めとする写真クラブの皆

さんの趣向を凝らした写真展で歓迎！ 信達市場、本陣跡では吉宗公のお出迎え・朝市で歓迎！ 吉宗公はだ～れだ？ → 信達大苗代の海会寺跡での休憩食事地点では、南京玉すだれ等で歓迎！ 新家の旧庄屋敷山田家での地酒販売・大道芸あめ細工と盛りだくさんのメニューでお楽しみ頂いた。



(‘06. 1.28)

◇ 大阪湾再生 “アマモの育苗” 協力

関西TV取材を受けた、アマモの苗づくり実習は、樽井公民館の料理教室で開催。

大阪湾再生に取り組む、田中先生（ホタル塾塾長）や、CANの関藤さんの指導の下、ホタルメイトの参加で、無事ピンへの植込み作業ができました。後は60日くらいで発芽し成長するのが楽しみや！ 参加の皆さんご苦労さん！（後日、関西テレビで放映）

(‘06. 2.5)

◇ 大阪湾再生市民フォーラム（貝塚市）

大阪湾の環境汚染が進むなか、「ほっといたらあかん！」と立ち上がった集団主催のフォーラムには、アメリカ市民の小さな環境保全が大きな広がりになる事例を聞き、勇気と根性を感じた。

(‘06. 2.10～11)

◇ 第23回 地域づくり団体全国研修交流大会（沖縄）

第11分科会「海を守る」糸満市

今回のキャッチフレーズ“いちやりば・ちょーでー”（一度出会ったら皆兄弟）を胸に、全体会場を後にマイクロバスに乗り込み漁師町糸満に向かいました。

車中の案内はボランティアガイドさんによるユーモラスな糸満市の紹介がありあっという間に宿泊先に到着。チェックインしてすぐ、埋め立て開発地に建設中の市民憩いのリゾート「フィッシュアリーナ」と、植林された報得川の現地視察をし、同じ開発地に新築された、すばらしい市庁舎に到着。ロビーにはまちづくり活動のパネル展示がなされ、市民の皆さんの我が町意識の高さの一端を垣間見ることができました。

分科会フォーラムの基調講演は「伝えておきたい糸満の海と漁業の歴史」と題して、沖縄県の名誉指導漁業士という海人“上原佑強”さんの、糸満の海が豊かだった頃の近海漁業について、ほとぼしる熱き想いの語りには、イノー（美しい浅い珊瑚礁の海）を埋め立て開発で失った、先祖伝来私たちの生活を育ててくれたきれいな森・川・海をどうしたら取り戻せるのでしょうか？との問いかけに、その代償の重さを深く印象付けられた。

海人（うみんちゅう）頑張っ！とエールを贈りたい。

パネラー発表では、開発と環境保全への取組み事例が報告されました。

大里地区には、湧水源が数多くあり、今でも生活用水・農業用水として涸れることなく使用されてる（高い山がないのに 沖縄特有の石灰岩の浸透・保水力によって清水が湧き続ける）しかし、過去には企業による放牧（糞尿の垂れ流し）やゴルフ場の芝生保全（農薬使用）で、水源が汚染されたが、その都度住民が立ち上がり汚染から水源を守る協定を結び、継続水質検査しているとのこと。3年前から20年ぶりのホタル飛翔がみられるようになったと聞きました。一方、中下流域での生活廃水や工場廃水などで報得川の水質悪化がみられ、戦前ではごく普通に見られた、子どもの水遊びや水生動植物の共存がみられなくなり、悪臭を放つワーストワンリバーに2回もなってしまった川を、清流に取り戻す活動が市職労を中心に各種団体の協働で実施された報告を受け、20世紀は全国規模での環境破壊であったことを痛感させられました。

みんな気づいていることですが、環境破壊での経済発展はもういらないのです。しかし失われた環境を取り戻すことは、破壊を進めてきた世代に残された課題です。夜鍋談義や宿舎での参加者交流では、このことについて各地の事例で話が盛り上がりました、そしてその活動を続けるには、“楽しい”がひとつのキーワードでした。

今回の分科会で参考になったことは「海は陸の様子を映す鏡である」海が荒廃しているということは、山も川も街も荒れているという話でした。私は街が荒れているということは、人の心が荒れているということだと思います。

一度きりのイベントより、継続する地道な活動と、人と人との「繋がり」が大きな力になることを再確認しました。今回の一番の成果は、20年ぶりにホタルが飛んだという話です。私達が取り組んでいるホタルの里づくりという大きな励みになりました。環境を回復すれば、昔の自然が取り戻せるというヒントになるのではないのでしょうか。

分科会実行委員会のみなさん、夕食会で琉球舞踊を教えてくださいました子供たち、エクスカージョンでお世話いただいた大里地区のみなさんの心温かいもてなしに感謝しつつ“ちょーでー”が何人できたかなと、指を折りながら糸満を後にしました。ありがとう！（報告：森広）

（'06. 2.11）

◇ 街道交流シンポジウム（大阪市）

国土交通省、近畿街道・交流拠点ネットワーク推進協議会が主催した「街道交流シンポジウム」“むすぶ道、であう道”に参加。

一部は、神坂次郎さん（作家）の基調講演「街道が結ぶ文化と交流」、二部は、井戸智樹さん（歴史街道推進協議会事務局長）をコーディネーターに、朝広佳子さん・坂本勲生さん（観光カリスマ）・岸上隆昭さん（枚方宿まちづくり）・村山友宏さん（全国街道交流会）をパネラーに、「街道から始まるまちづくり」をテーマのパネルディスカッション。

このシンポジウムで、配布された「活動報告会資料集」に、市民会議の活動（熊野街道ルネッサンス）を仲間に入れて頂いた。

（'06. 2.14）

◇ 藤保存会 設立発起人会

ご当主の意向を受け、市民会議が世話役となり発起人会開催。

（'06. 2. 18 ～ 6.12）

◇ ホタル保護看板製作 & 設置

ホタルメイトの参加で、決定したキャッチフレーズ

- ① みんなで守ろう、泉南のホタル！
- ② ホタルの里！美しい自然を守りましょう！
- ③ ここはホタルの生息地です。大切に見守りましょう。

などの看板を古材を活用しての製作開始、後日元看板屋さん

のボランティアで立派な文字書きも完成した看板は、紀泉わいわい村・新家川上流・柳谷川にそれぞれ管理者の許可を得て設置しました。



（'06. 2.22）

◇ 景観セミナー（泉佐野市）

神吉紀世子助教授（京都大学）、瀬田史彦助教授（大阪市立大学）による少人数セミナーを、登録有形文化財「新井家住宅」で寒い中、膝つき合わせて受講。

□ 10年目 -2006年（平成18年）-

（'06. 4.1）

◇ 熊野街道信達宿「藤保存会」誕生！

年々来場者数が増え続ける、泉南の春の一大イベント「梶本さんちの藤まつり」は、個人の限界を遥かに超え、昨年からは、まちづくり市民会議と泉南案内人の会が応援をさせて頂いたが、藤の維持管理と一般公開の支援をするため、沢山の皆様のご理解とご支援の下「藤保存会」を結成することができました。支援の輪に加わって頂いた団体は、牧野区・信達婦人会・七福会・泉南の里山を大切に作る会・文化協会写真クラブ・泉南案内人の会・信達郷共有林野組合・市民会議及び近隣有志と樹木剪定師。



(‘06. 4.15)

◇ 第10回「ヒメボタルサミット」(三田市)

兵庫県立人と自然の博物館で開催のサミットに4回目の参加(小雨の中4名)。施設も中身も上質の集まり。ポスターセッションに「大阪南部・泉南地域におけるヒメボタルの生息状況」として、田中塾長が発表。ヒメボタル限定の突っ込んだ活動に比し、我々の活動内容の再検討の必要性を感じた大会であった。

(‘06. 4.21)

◇ “蘇えれ 海のゆりかご” 泉州の海に 藻場を再生!

1月28日に種を植え付けたアマモが育ったので、その苗をボランティアダイバーの手で、樽井漁港横のサザンビーチの浅瀬に無事に移植しました。アマモ場は光合成によりCO₂の吸収・固定能力が高いことから、地球環境問題における温暖化防止の面からも最近注目されています。せんなんホテル塾として、一人一人の活動は微々たるものですが、みんなの輪が広がればすごいパワーになると思います。川上でホテルの増殖活動をしながら、川下(海)までの環境保全に協力しましょう。



(‘06. 4.23~24)

◇ 藤まつり

保存会誕生初年度は、気温の低い春の影響で、開花が遅れ「藤まつり」とした23・24日は3分咲き状態にも拘わらず大勢の訪問者がありました。ゴールデンウィークに見頃の超ロングランになったが、組織のメンバーも頑張ったお陰で2万人の藤を愛する人々に、泉南の温もりをお持帰り頂けた保存会のみなさんお疲れさま。また、花の盛りの5月8日に、花房摘みをし2万7千房をカウントしました。



(‘06. 6.10)

◇ ホテル観賞の夕べ 第5回「音と光のページェント」
市民会議が主管 ABC委員会主催で開催!

- 一部：親子で里山体験（ジャガイモ・たまねぎ掘り）
- 二部：平和を願う音楽会（手話ダンス・ママさんコーラス・フォークソング）
- 三部：ゲンジボタル観賞（環境クイズ・ホタル生態解説&観賞）



（'06.6.11 ～

◇ ビオトープづくり奮戦！

昨年7月から開始したビオトープづくりは、大阪府みどりのトラスト協会の“みどりの輪”助成を受けて、刈払い機を購入、ホタルメイトとその他のボランティアさんの協力で草刈を実施した、機械の威力はすごい！

池の形は整っても、水が確保できなければ単なる窪地、水利組合の理解も得てのスタートであったが、防水と稲作前後の水確保のため、土壌改良剤（防水）と水中ポンプも購入し、暑い 熱い 篤い 戦いに奮闘中！

（'06.6.24～25）

◇ 第5期 せんなんホタル塾 先進地視察「龍神村」一泊研修

第5期は講座を中止し、先進地視察のみとした。11名の参加を得て、龍神村のゲンジボタルを探索してきた。何故か期待した龍神村にホタルが少ない！参考になる情報も得られなかった。それに比して ～泉南のホタルはすごい～ 今年の泉南ボタルは数も種類も良かった！みんなで大切に見守り、自然増殖地として誇れるふるさとを創生しましょう！

（'06.7.12）

◇ “アマモの種”箱作海岸で採取！

アマモの種を泉南の里海である、箱作海岸で採取し大阪府の水産試験場で寝かしてから、苗づくりに参加しました。

（'06.8.30）

◇ ビオトープ技術研修会（大阪市）

大阪府主催の「ビオトープとは何か？ 整備の考え方とその手法」をテーマに、養父教授（和歌山大学）の研修会に参加。手間のかかりすぎるビオトープは失敗にヒント！

（'06.9.20）

◇ 私の提言（JADA ニュース 329号）（社団法人中高年齢者雇用福祉協会発行）

市民会議顧問の、中尾先生の寄稿文「私の提言」を人生訓に、以下原文掲載

伊能忠敬の“二山の人生”（井上ひさし『四千万歩の男』講談社文庫）にあやかろうと、56歳で神戸市職員から大阪明浄大学（現大阪観光大学）の教員に転職した。今は“二山目の人生”のまだ2合目でウロウロしているところか。それでも教育・研究・地域連携事業に取り組んで5年半、本年3月には3期生を送り出した。卒業式での彼らの晴れ姿に「教師になって良

かったな」とつくづく思った。さて「観光」の語源は、易経の「觀國之光」（国の光を観る）から採られているが、このことを知ったのはいつのことだろうか。若い頃には、まさか観光の仕事に就くなんて、全く予想もしなかったが、なんと現在、「観光学」を専門とする教員になっている。かって上司が「人生とは縁と運と根だ。縁と運は引き寄せることはできるが、他人まかせだ。ただ、根は自分の努力で続けることができるからガンバレ」と、励ましてくれたことがある。振り返ってみれば、筆者の“二山目の人生”には、まさに三つの要素が関わっている。すなわち、①かって神戸市役所で観光係長として観光行政に携わったことがある。その仕事があまりにも自分の“性に合っていた”ので、異動後も、学会に加入し「観光」の勉強を続けてきた（根）、②2001年に大阪明浄大学が開学し、「社会人出身」の教員が必要とされた（運）、③そして、学会でご指導頂いた先生の推薦があった（縁）、の三つがあげられよう。さらに、強かに「背中を押して」くれたのは、転職前の職場での「PREP コンダクター」の経験である。当時、50歳過ぎの若造が「職務上」とはいえ、先輩諸氏を前に定年後の「健康・経済・いきがい」づくりを説いていた。それでは「お前さんの生涯生活設計はどんなの?」。そこで真剣に考えた。行政職から大学の教員への転職は全くの想定外であったが、縁と運と根が「二山目の人生」の扉を開いてくれた」提言などおこがましいが、在職中から本当に自分のやりたいことを見つけること、後は縁と運が「扉を開いてくれる」と確信して、根を持ってその準備を継続することだと思う。

（'06.9.25）

◇ 藤棚補修工事

中庭軒先まで、蔓を伸ばそうと藤棚の追加とペンキ補修、併せて枝垂れ桜の枝吊りを実施。保存会の威力発揮！何でも出来る、自前が凄い！蔓が伸びて花が咲くのが楽しみだ！その時はきっと中庭の風情が増すだろう。

（'06.9.29）

◇ 南泉州観光会議（貝塚市）

貝塚以南の広域観光について、市民で考えようとの呼びかけに参加。

（'06.11.4~5）

◇ 第3回「熊野街道ルネッサンス・フォーラム」

昨年の「熊野街道ウォーク」が今年も泉南で開催され、今回は泉佐野駅を基点にして、樽井駅に向かうというコースになり、歴史街道ファンが700人歩きました。

市民会議が主管して二日間に亘る応援イベントを開催しました。

前夜祭の11月4日は、あいびあ泉南を会場に「フォーラム」（今年からシンポジウムを改称）を開催。

沖縄ポップス“一期一会”のウエルカムコンサートで、沖縄特有のリズムに乗って南から温かい風が会場いっぱい吹き込み満席でのスタートとなりました。続いて主催者・来賓の挨拶があり、いよいよ本番。基調講話は、井戸智樹さん（街道推進協議会総合プロデューサー）に



より、「歴史街道計画と先進知」（地ではなく知）と題して各地の成功事例とその意義についてプロジェクターを使って紹介された。10分間の休憩後、まちづくり談義を、まちづくり活動家 朝広佳子さん（観光カリスマ・なら灯花会の会）、地元から松田秀逸さん（山田家住宅保存活用協議会）、当会代表でもある森広（熊野街道藤保存会）がパネラーに加り、コーディネーターは中奥良則さん（総務省地域再生マネージャー）で、活動事例に将来計画を交えて建設的意見交換が展開されました。会場からも活発な意見が出て、街道を活かした「まちの活性化」への助走期としてのごたえを感じたフォーラムとなった。



11月5日は、史跡“海会寺跡広場”で「フェスタ」と銘打って、楽市楽座を開催。楽座は、泉南太鼓塾の和太鼓演奏、夢一座による南京玉すだれの妙技で休憩時間を楽しんで頂きました。朝市は、協賛店による地産の産品が、お土産として売っていました。

（'06.11.10～11）

◇ 第24回 地域づくり団体全国研修交流大会（愛知県）

第11分科会「ふれ愛のまち」高浜市

全国交流会初日、私は全体会前の昼食交流会に参加し、我が団体の活動報告を行いました。全体会終了後、ウイールあいちを後に、バスに乗り込み“ものづくりの町”高浜に向かいました。かわら美術館に到着し、いきなり3メートル大のいぶし銀焼“鯨ホコ”ペアの出迎えを受け驚愕した後、早速小企画展・常設展示品を觀賞しました。なんと、瓦の歴史的遺品の中に我がまち泉南市の発掘品があり感激しました。その名は、“海会寺史跡”の軒丸瓦。その昔は法隆寺に並ぶ伽藍があったとか。白鳳時代の遺品として展示されてありました。見学が終わると、今度は期待の体験コーナー。実はこの分科会参加のきっかけとなったのが、この体験コーナーの鬼あかり「ランプシェード」製作でした。技師の説明を受け、いよいよ製作開始。練り込んである粘土を手のひらで伸ばし、ひっくり返しては均等に伸ばし、筒に巻きつけ、好みの穴を型抜きするという悪戦苦闘の1時間でしたが、小学校以来の粘土いじりで、手づくりの温もり・自由自在の難しさ・完成までに2ヶ月必要という長い待ち時間も、いい体験となりました。

その後、18時からかわら美術館ホールにて交流会が始まりました。挨拶・乾杯の後、地産のご馳走に舌鼓を打ちながら、北は群馬県、南は宮崎県までの12名がそれぞれ、誇らしげに活動内容を紹介し、交流を深めました。ステージでは餅つきが始まり、各地の参加者も交代で杵を持って、餅つきに興じました。つき立ての餅の美味しかったことは忘れられません。クライマックスは、地元のアマチュア和太鼓グループ「夢童」による和太鼓ショー。一糸乱れぬ太鼓の響きは、身体の芯まで震わせ、元気を貰いました。

二日目は、市内散策コース“鬼みち”を見学しました。夜中の雨で舗道もしっとりと濡れている中をボランティアガイドの案内で一巡りしました。コースのいたるところで、瓦をあしらった工夫がみられ、瓦への愛着と誇りが感じられる町並みとなっていました。

また、道沿いの民家が街角ギャラリーとして開放され、気軽に立ち寄れる休憩所となっており、民芸品と抹茶の温かいもてなしを受けました。ギャラリーを出ると、小雨模様となり、傘のお世話になりながら、足早に鬼瓦工場に着きました。工場では、工芸美術品ともいえる鬼

瓦を目の当たりにし、数百年にわたって受け継がれてきた匠の技・品質へのこだわりに感嘆しました。伝統の技を未来に引き継いで～！と エールを送って工場を後にしました。

昼食後は、人形小路のスタンプラリーと、菊師の里初の菊人形展見学。小さなエリアでしたが、随所で住民参加型のイベントが行われており、市民の皆さんがいきいきと活動している姿が印象に残りました。今回のこの分科会は、論より証拠、体験してみなはれのグリーンツーリズム型。 “耳学問より手足学問” と教えてくれた実行委員のみなさんに見送られ、それぞれの帰路につきました、大変有意義な集いを高浜市のみなさん、ありがとう！ （報告：森広）

第15分科会「伝統と文化の新たな創造」豊田市

大会一日目はランチセッション（団体PRタイム）と全体会（基調講演）に参加し、その後第15分科会の豊田市足助まで一時間かけてバス移動しました。分科会ではAT21倶楽部の活動報告のあと、グループに分かれAT21の事例を参考に活動の課題や問題点について話し合うワークショップでした。

AT21倶楽部の活動は、足助地区内に潜在する資源や施設を1年間かけてじっくり見てまわり足元の見直しから始め、活動が大きく花開いたのは「中馬のおひなさん」というイベントでした。開催5年目の昨年は土びなや古い衣装びな等120軒の民家がおひなさんを飾り、観光に75,000人が訪れたそうです。町の路地なども貴重な資源と見立てて「足助まちじゅう博物館」として発展させているとのこと。住民の深い理解とやさしさにあふれた風土と故郷を守り育てていくという誇りが多くの観光客を引き寄せているのでしょうか。

ワークショップの後は、観光カリスマの小澤さんからは「町の様子を見れば、町に生きてる人の様子が伺える、観光客は小さな美しさを求めてくるのである、本物であればPRはいらぬ」とアドバイスがありました。少し暗くなり始めてからライトアップされている足助のまちづくりの原点であり、東海随一とされるもみじの名勝「香蘭溪」を案内していただきました。温暖化の影響で紅葉はまだでしたが、風光明媚な景色を堪能しました。

二日目は山里あすけのくらしを今に伝える、まさに生きた資料館である「三州足助屋敷」を見学し、古い歴史のある中馬街道の町並みを足助観光ボランティアガイドの皆さんの案内でそぞろ歩きしました。自分達の町並みは自分たちで守るのだという意識と住みよい環境づくりをするという自主規制が町並み保存に繋がっているのでしょうか。昼食会場は「三州蛸を守る会」の活動拠点でもあるということで、バスで移動中に活動紹介がありました。車中から見える農村風景は、昔のように蛸が甦り夏になると蛸が乱舞するそうです。

～地域資源を生かしたまちづくり まさにマンパワーでした～

足助の皆さま、心からのおもてなし、ありがとうございました。（報告：西野）

（'06.11.26）

◇ 大阪観光大学と交流会

大阪観光大学在学中の留学生20名による熊野街道ウォッチングの途中、昔ながらの風情を残す街道沿いの「八百吉食堂」で、市民会議メンバー9名との交流会を開催。

若者の将来の夢とか想いを聞かせてもらい楽しいひと時を過ごした。また、日本の正月を

知ってもらおうと、会員宅に数名を招待し、おせち・初詣などの風習を体験してもらった。留学生にとって一生の思い出になったことでしょう。 謝！謝！ （報告：杉山マ）

（'06.12.11 ~ 12.26）

◇ クリスマスイルミネーション

師走恒例の電飾を、昨年から場所を図書館からあいびあ泉南に移して実施。今年は全体デザインを ABC 委員会文化推進チームが担当し、市民会議のアイデアで、「SENNAN」の文字が大きく浮かび上がり、子ども達の人気を呼んだ。

また、地球温暖化への配慮から、点灯期間も1週間短縮。



（'07. 1.12）

◇ 地域づくり団体協議会「講演会」（大阪市）

乾 亨（立命館大学教授）さんによる「機嫌よう暮らせるまちにするために」というテーマで「地縁」を活かしたまちづくりについて受講。

（'07. 1.15 ~ 2.9）

◇ まちづくり実践ワークショップ（堺市）

まちの再生や活性化に向けた取り組み方法を学ぶ「まちづくり実践ワークショップ」が、開催された。堺市民対象であったが、主催者の好意で参加させていただいた。

1 回目は 先進事例から学ぶとして「まちづくりを楽しく継続して進めるために」をテーマに、久 隆浩（近畿大学教授）さんの講演があり、続いて事例報告「身の丈にあった活動を・・・」松村長二郎（平野のまちづくりを考える会）さん、「地域の協力があつたからこそ！」赤井 直（豊中ひがしまち街角広場）さん、「住んでいる地域をよく知ること」古田篤司（新開地まちづくりNPO）さんによるパネルディスカッションがあつた。

— 講演の概要 —

社会が、ますますたいへんな状況になっているからこそ、地域の絆を強くすること・元気な人がつながり・多様な人のネットワークをつくること。そのネットワークが 小さな力でも積み重ねることで大きなことができ、多くの方が参画することで、地域力が高まるとともに一人ひとりの負担が軽減される。リーダーからファシリテーターづくりが大切であり みんなが動ける環境をつくり、色々な技能や経験を持った人かを把握し、上手に頼むこと。地域でいろいろな人が定例的に集まり語り合う交流の場づくりが大切であるということ。そして、元気な人が集い、元気を重ねていくしかけの大切さ。交流の場・成功の秘訣として、場の活性化の鍵は、参加者の主体性と多様性であり、出された課題に一人ひとり何ができるかを考え動けること。また、話し合うことから聞きあうことで満足度が高くなること。最後に、楽しくするために、できる人がやりたい人ができることをやること。継続して進めるために、無理なく行い、体力にあわせて行うこと。休む勇気 止める勇気も大切である。

2 回目は、参加者が6グループに分かれての「まちづくりの基礎及び専門知識に学ぶ」。

3回目は、参加者団体の「活動の紹介と活動の課題・問題点を探る」があり、市民会議も発表させていただいた。（報告：森広）

（'07.2.16）

◇ 第47回大阪府公民館大会—阪南ブロック大会—（岸和田市）

「住民と行政の協働」を実践の中心に据えてきた公民館の役割は、新たな工夫と体制の重要性がいま問われています。岩手県の前滝沢村長を招き「滝沢村の行政改革に学ぶ」と題し、幸せ地域社会の実現に向けて、職員と住民の意識改革に取り組んだ事例講演があった。

□ 11年目 —2007年（平成19年）—

（'07.4.21 ~ 4.28）

◇ 藤まつり・花房摘み

保存会発足2回目の藤まつり、開花時期に合わせたまつりとなり、地元商店会ものぼりを立てたり、花のプランターで街道に彩を添える盛り上がりで、2万5千人の来訪がありました。開花状況をリアルタイムにホームページで公開したことも好評でした。また、駐車場を少し離れたところに用意でき、会場までの道筋の人の流れがまちの活性にもなりました。毎年開花させる為の、満開時期の花房摘みを28日に実施、今年は3万房を越えました。



（'07.6.9）

◇ ホタル観賞の夕べ 第6回「音と光のページェント」主管（主催：ABC委員会）

一部：悠久の風コンサート（出演：二胡 李 建華）

二部：ホタル解説（解説：田中正視）

三部：ホタル観賞

（'07.6.17）

◇ 赤煉瓦の館「Rui」で“JAZZ LIVE”を共催

赤レンガの紡績工場跡を、人の集いの場にしようと改装開場した「Rui」の、レトロなステージで新進気鋭のジャズグループ



“SeepWarm”が泉州発のお目見え！消えゆく煉瓦造の紡績工場跡を、残してほしいと願う市民会議の想いに、応えてくれたオーナーさんを支援すべくJAZZ LIVEを持ち込んだヒロ企画との共催で実現！梅田を中心に活躍しているピアノ・ギター・テナーサックス・ドラム・ベース・ボーカルの6名が大正ロマン



漂う空間で、スタンダードナンバーを熱演。コーディネートされたテーブル席にちょっとお洒落でご来場の紳士淑女有料にも拘わらず満席となった非日常的空間で懐しのJAZZを堪能して頂きました。赤レンガRuiの今後を見守っていききたいですね。

(‘07.10.27)

◇ 第4回「熊野街道ルネッサンス」フォーラム開催

4回目を迎えた、街道フォーラムを、点から線に拓げようとなり、国の登録有形文化財である、新家の旧庄屋敷山田家住宅で開催。一部に「熊野信仰と小栗判官物語」を熊野本宮語り部の会から、安井理夫さんに語っていただき、二部では、「熊野街道を往く」として、岸和田以南の案内人に参加を得て、わがまちの伝説と民話を紹介してもらいながら、中尾 清教授（大阪観光大学）のコーディネートで街道筋の町並み保存についてパネルディスカッションをしてもらいました。第三部は当会の三好率いるマンドリンアンサンブル“はるか”のコンサートで樫井古戦場の晩秋の風情を感じてもらった。生憎の空模様であったが、約200名の歴史ファンで会場は、一杯の盛況でありました。



(‘07.10.28)

◇ 市民会議 10周年記念事業 熊野街道「花回廊」スタンプラリー

市民会議結成10周年記念事業を開催しました。午前中は、熊野街道「花回廊」スタンプラリーとして、和泉砂川駅をスタートし、岡中の大樟～林昌寺～梶本家～長慶寺～山田家の8キロコースを、スタンプをゲットしてゴールの山田家へ。午後は周年記念祭として、回顧パネ



ル展・泉南太鼓塾の和太鼓演奏・横田さんのギター弾き語り・餅つき・東さんの山野草展・小林さんの押し花展を開催。

当日は、山田家住宅の登録有形文化財認定5周年にも当たるので、

このお祝いも兼ねたイベントとなり、大賑わいとなりました。



☆☆☆ ☆☆☆ ☆☆☆ ☆☆☆ ☆☆☆ ☆☆☆ ☆☆☆ ☆☆☆ ☆☆☆ ☆☆☆

◇ 10th ANNIVERSARY ～10年の歩み～

パンフレット発行

■ 1997～2000 産声をあげた市民会議

・自分たちのまちは、自分たちで良くするという視点でまちと向き合い、自分たちで出来ることは自分たちです。そのような意思のある団体・個人のネットワークをして、「市民主体のまちづくり」の推進を図り、それを行政が積極的支援をする。この両者の連携を確立し推進させることがまち活性化の基本と考えます。

このまちづくりは一部の限られた人がすることではなく、この地に暮らしている人の権利です。自らが、まちと向き合い日常生活の身近な出来ることから、その一歩を踏み出してみたいと思います。ぜひ一緒に考え・行動しませんか！

■2001～2004 大きく羽ばたく市民会議

・市民運動は要求型の活動から提案型の活動にシフトし行政と協働も根付きつつある。生涯学習によるまちづくりは、学ぶことだけではなく必要な課題を見つけ実践することであり、地域を活性化さすエネルギーである。まちづくりのゴールは、そこに住んでいる住民が幸せを感じ、まちを誇りに思うことである。

まちづくりの結果も30年のこだわりの産物であり、まちづくりの効果を感じるのに5年、結果が見えるのが10年と言われている。

～まちづくりは夢づくり～ 地域の課題を見つけ実践活動と並行して、シンクタンクの活動の可能なNPOでありたいと思っている。

■2005～ 市民会議は今 ～新たな飛躍へ～

わがまちを行政に任せて安心ではありません！ 役所主導の時代は終わりました。市民が主役といわれて久しいが、お気に入りのまちに変わったでしょうか？ 住民の意識が変わらないと、行政の意識改革もスロー！ 地域の活性化は、この両輪の意識改革の競い合いからスタートです。

市内には、ターゲットを特化した素晴らしいNPOがあります。行政も含めたパートナーとしての共同枠を広げ「再び住みたいまち」の実現を加速しよう！

市民会議が蓄えてきた、知恵と情報のネットワークと行動力、そして情熱の火を絶やさないため、新たな担い手を求めている。志士よ、来たれ！（作成：城森）

☆☆☆ ☆☆☆ ☆☆☆ ☆☆☆ ☆☆☆ ☆☆☆ ☆☆☆ ☆☆☆ ☆☆☆ ☆☆☆

（'08.3.2 ～ ）

◇ ビオトープ整備作業

・ 3/2草焼き ・ 5/31 草刈り ・ 10/27 草刈り

（'08.3.6）

◇ 議会傍聴

市民会議ほぼ全員で、定例議会の初傍聴。議員諸氏も傍聴者の多さにさすがに気になるのかさかんに後ろに目が向いていた。（傍聴自由・事前申込不要）（現在はNet配信も有り）

（'08.3.7）

◇ 神戸ベイシャトル試乗体験会参加

・ 関空～神戸六甲アイランドを結ぶ、海のアクセスとして期待されるベイシャトルの試乗会に参加。途中大阪湾に住み始めたといわれる“スナメリ”に遭遇するかと期待していたが、叶

わなかったが快適な船旅だった。

('08.3.9)

◇ 梅林植樹参加

市民の里の植林地、最奥に市民参加の梅林が造成されて、市民会議5名参加。それぞれの木にマイネーム板を吊るし、植え込んだ。お世話して、花を咲かせ実を結ぶのが楽しみ！金熊寺に続く、新たな名所となることに期待したい。



('08.3.23)

◇ 「平野・町ぐるみ博物館」見学会 (主催：ABC委員会)

団塊の世代地域デビュー支援プログラムとして、市民会議が企画！

江戸時代に商人で栄えた環濠都市“平野郷”に自宅や職場を開放した、ミニ博物館が多数あります。住民個人の力で広がった、キラリと光る個性的な“まち”を見学し、話を聞きます。概ね50歳以上で、地域活動に関心ある方、大集合！



参加無料・昼食代2,300円
実費必要として先着30名を募集したところ、早々に満席での実施となった。



市役所 9:30 出発～全興寺(住職講話)～平野郷屋敷(昼食)
～各博物館自由散策(平野映像資料館・へっついさん/和菓子屋さん/新聞屋さん/平野の音/駄菓子屋さん/珈琲屋さん/

自転車屋さん/町屋/鎮守の森 各博物館)～大念仏寺～市役所 18:15 着

往路車中では、ABC委員会(文化推進事業部・国際交流事業部・花いっぱい事業部・クリーン事業部)と、団体(文化協会・泉南の里山を大切にする会・泉南案内人の会・泉南市婦人団体協議会・泉南子育てサークルネットワーク「小さい友の会」・市民会議)の紹介をし、地域活動へのデビューを呼び掛けた！復路車中は、さすがに皆さんだんまりお休み！

□ 12年目 -2008年(平成20年)-

('08.4.26~27)

◇ 「ふじまつり」運営支援(事務局担当) 以下、藤保存会の記録から転載

- ・ミニコミ紙で初めて紹介した時は9年前、5千房だったのが、なんと去年は3万5千房に！
- ・藤保存会も出来て、地域で支える春の大イベントになった！
- ・樹齢28年 ・幹周り1.48m ・3万人の来訪者

泉南のビッグイベントを纏める立場になった、市民会議の総力で頑張ろう！

('08. . .)

◇ 「大阪ミュージアム構想登録物」申請協力

大阪市に次いで府内で2番目に多い登録物(68件)を達成!

市民力で宝を磨きあげて、その魅力振り(誇り)を世界に発信していこう!

('08. 6.07)

◇ ホタル観賞のタベ 第7回 “音と光のページェント”

開会前に、設置した「ホタル保護看板」の除幕をホタルメイトさんの手で執り行った。

一部:「土笛の風」コンサート(オカリナ“テディベア”)

二部:環境クイズ(出題:市民会議)

三部:ホタルの生態解説&ゲンジボタル観賞(田中正視先生)



('08.8.22)

◇ 食廃油からローソクづくり挑戦!

家庭から出た食廃油をリユースしようと、情報収集し、婦人会の協力を仰ぎ樽井公民館でローソクを創りました。

翌日のサンセットフェスタで点灯、レシピの配布をしました。



('08. 8.23)

◇ 第6回 泉南 “楽会” (兼) 第1回 「サンセットフェスタ」

泉南市のマーブルビーチは「夕陽百選」「恋人の聖地」に選ばれています。関空に陽が沈む、サンセットタイムに、生涯学習で磨いた技達が光る! あなたも「泉南 “楽” 会」クルーの一員になってみませんか? と呼びかけ、以下の内容で実施した

■ 開催コンセプト:

①市民を初め、市外の人に泉南市の誇れる自然環境(日本夕陽百選、恋人の聖地)を発信し認知度アップを図る。 ②生涯学習で得た技能の発表の場を提供する。 ③地球規模での環境問題(温暖化防止)に触れる機会とする。

■ イベント内容:

□ 8/20~24 夕陽の写真展(イオンホール)

日本の夕陽百選地の写真及び泉南の夕陽の写真を会場いっぱい展示した。(日本夕陽の写真の会員さんも近畿一円から多数ご来場頂いた)

□ 8/23 第1回 “サンセットフェスタ”

生憎の雨の為、会場をイオンホールに急遽変更しての会場セットとなり、スタッフは大汗をかいたが、出演の皆さんにもご理解いただき、無事にプログラムを完了!

◎ ダンス

(VENUS WEST・Passion・La Granada・Halau Hura O Kamere Aloha)



◎ ジャズ

(Night Dreamer & Rosa)

□ 8/24 サマーエンドクリーンナップ

◎ ビーチサイドのごみ清掃

(多くの市民参加で、降雨前の1時間実施できた)



(‘08.11.30)

◇ 第5回「熊野街道ルネッサンス・街道悠遊」開催

5回目を迎えた、熊野街道ルネッサンス、今回は半日ゆっくり街道を悠遊しませんか？ と



呼かけて、JR 新家駅をスタート～山田家住宅～海会寺跡～厩王子跡～角谷本陣跡～真如寺～長慶寺～藤の梶本家～往生院を巡るスタンプラリーでした。ゴールの往生院では、住職と郷土史家の向井俊生さんの講話を聴き、由緒や歴史の話にみなさん納得顔でした。続いて“風の音魂”による民族楽器コンサートで、聞いたことのない超低音の調べに、魂を癒していただきました。

(‘09.3.25)

◇ 「桜の苗木樫井川に植樹」を提案

ABC 委員会設立20周年記念事業として市民会議が提案した「アドトリバー樫井川西」の認証式後、管理者の岸和田土木・泉南市職員と市民の参加で桜の苗木20本が植樹され、樫井川西岸土手の清掃管理がスタートした。25年後が楽しみ！

将来、山から海を繋ぐ桜街道になることを、子ども達に託したい。



□ 13年目 -2009年(平成21年)-

(‘09.4.27~29)

◇ 遺言の藤棚「テレビ取材・放映」大ブレイク

ご当主(梶本昌弘さん)亡き後、保存会主催「第1回藤まつり」は、4月25~26日開催。

- ・一般公開(18~29日)期間中の来訪者数35,000人、花房数45,000剪定(30日剪定)
- ・ご当主亡き後のふじまつりとして、TVの取材を受け、それぞれ放映された。

4/27 NHK(ニューステラス関西 8分)、朝日放送(おはようコールABC 6分)

4/29 毎日放送(VOICE 9分)、NHK(ニュースウォッチ9 8分)

4/16~30 JCOM(旬!瞬! 14分)

(‘09.6.)

◇ホテル観賞のタベ“音と光のページェント”開催中止

ABC委員会で継続されてきたイベントも、残念ながら安全管理上の問題で中止となった。

(‘09.7.1)

◇“文化せんなん”13号(文化協会会報)に 代表が寄稿

「泉南の宝磨き」

泉南市に移り住んで30年、泉南の文化に浸ったのは、定年退職後の8年。

温暖な気候、温かい人々、みんなおっとりしています。この感じいつまでも引き継いでほしい、でも泉南の良さを今一度見直してみませんか？

ABC委員会は、“花と緑に包まれた平和で文化の薫り高い、美しい街づくり”を目指し市民と行政が、協働で活動しています。

そんな中で文化推進事業部では、参加団体が泉南の歴史・自然・生活の中から、テーマを発掘し、磨きをかけたり、仕掛けを創ったりの事業を展開しています。ABC委員会は、その事業に対して人的・財政的支援をしています。また、二人以上の団体なら誰でも参加できることが誇るべき特徴です。

泉南の誇らしい文化財について、少し触れてみましょう。橋下知事肝入りでスタートした大阪ミュージアム構想の登録物に、泉南市からも沢山の物件が登録されました。泉南市唯一の登録有形文化財である旧庄屋敷「山田家住宅」、そして熊野街道「信達宿本陣跡」、白鳳時代に法隆寺の伽藍をしのぐスケールであったろう国史跡の「海会寺跡」、気軽なハイキングコース「お菊山」大正浪漫景観「信達宿のまちなみ」、春の一大イベント「信達宿のふじまつり」、秋を告げる「やぐらまつり」、産業遺跡の「赤レンガ工場跡」、季節を彩る「花のお寺」、夕陽百選の「マーブルビーチ」、大阪湾唯一の自然干潟「男里川河口」、初夏を告げる「里山のホテル」その他食文化もいろいろあります。

この春、ABC委員会も20周年記念事業として、泉南市をつばさのまち臨空都市として魅力あるまちにしたいと、大坂夏の陣古戦場跡に流れる榎井川堤に桜の苗木を植えました。

これらの歴史・自然文化財を市民みんなの手で大切に磨きませんか？ 未来に夢を！地域に誇りを！生き生きと楽しく暮らせるまちに、みんなが何かに関わって、自分の出来ることから始めましょう、きっと出来ることがあります。

磨いた宝は工夫して情報発信しましょう！ 本物はきっと人を惹きつけます。 人に見られるともっと磨きたくなる、ほんまもんの光に向けて！ (寄稿：森広)

(‘09.8.26)

◇ 第2回「サンセットフェスタ」開催

昨年は泉南楽会として開催した「第1回サンセットフェスタ」は、生憎の雨で会場をやむなくイオンホールへ移動しての開催となったが、今年は好天に恵まれ本来の立地で開催できた。

しかも市民会議の単独主催、力が入る！

定番となった浜辺の清掃からスタート、出演者を初め来場の方々、たまたまこの浜辺に居合わせた方々、総力でのクリーン



アップで、マールビーチが綺麗になりました。地域で生涯学習として磨いた技を、マールビーチをステージに披露することで、環境と人々にスポットライトを当て、泉南を誇らしいと思える新たなお祭りとしての定番化を目指します。サンセットタイムには、家庭の食廃油から手づくりしたキャンドル（前記）を灯し、地球環境問題をアピールしました。（参加者 700 名）



（'09.11.11）

◇ 異業種交流会「まちおこし“地酒BAR”」講師で参加

日根野北庄司酒造の酒蔵で毎月ゾロ目の日に開催のほろ酔いまちづくりサロンにお呼びがかかり、代表の森広が参加し、退職後 10 年を振り返り活動紹介をしました。

テーマは “愛のまちづくり遍歴” 子ども達のふるさと、自分の終の棲家、泉南が「夢と誇りと生きがい」を持てる素敵なまちであってほしい、そんな想いを共有する仲間たちとの、汗と涙の挑戦プロセスとその成果をひも解きながら、ほろ酔い気分で紹介しました。

（'10. 1. 1）

◇ 広報せんなん 1 月号「新春対談」に 再び、市民会議代表参加！

恒例となった “広報せんなん” 1 月号の市長と語る “新春対談”

市制 40 周年「泉南市の文化歴史をたどる」に、市民会議から代表森広に参加し、まちづくりへの抱負を語った。

— 発言要旨は以下のとおり —

私の今の仕事は、ボランティア活動で「住んでよかった泉南市に寄与する活動」をしている。市民会議は、①生涯学習、②文化と歴史、③環境、への取り組みを柱に活動している。具体的には、旧庄屋屋敷「山田家住宅」の保存活動、街道まちおこしを狙った「熊野街道ルネッサンス」、環境汚染啓蒙のホタル保護活動です。

活動の成果が、山田家の登録有形文化財認定・熊野街道信達宿藤保存会結成・ホタル観賞のタベ “音と光のページェント”・“サンセットフェスタ” と実を結んだ。

“夢” “誇り” “生きがい” を具現化して、“住んでよかった泉南市” から “再び住みたいまち泉南” にしたい！ 取組テーマを「花」とした、櫻井川堤に桜を植えたアドプトリバー、花のスポットをネットワーク化した泉南花回廊を、こどもから高齢者までの協働で実現したい！

≪他のゲスト：石神節子さん、松田秀逸さん MC：上之山幸代さん≫

（'10.2.5）

◇ 泉南から岬をつなぐ「まちづくりリレートーク」に参加

阪南まちづくりネットワーク主催の公開講座に、講師（代表）として参加しました。

阪南まちづくりネットワークでは、市民がともに学びあう機会として、隔月で講座を開催。

今回は、「市民によるまちづくり」がテーマです。“近隣の町の元気な市民による、身近なまちづくりの実践をお聞きします”と題して、西鳥取公民館で開催されました。 岬町からは、まちづくりワーカーズ 阪本敏郎さんが講師として参加、それぞれ、実践活動の紹介後一般参加者を交えた交流会で盛り上がりました。

以上、初期～熱中期の活動状況を、手元に残された資料をひも解きながら纏めました。

活動の果実（成果）

- | | | |
|---------------------------|--|--------|
| （'02.3.22）平成14年 | | |
| ◇ 「山田家住宅」国登録有形文化財 | | 認定 |
| （'02.6.7）平成14年 | | |
| ◇ 新家川上流河川改修で「ホタル護岸」完成 | | 提案／採用 |
| （'02.6.15 ～ '08.6.7）平成14年 | | |
| ◇ ホタル観賞の夕べ「音と光のページェント」 | | 7回開催 |
| （'03.10.4）平成15年 | | |
| ◇ まちづくりモデル事業（文科省補助事業） | | |
| “泉南ルネッサンスカレッジ開講 | | 提案／参画 |
| ・ 泉南太鼓塾（和太鼓集団） | | 誕生／活動中 |
| ・ 泉南案内人の会（ボランティアガイド） | | 誕生／活動中 |
| （'04.4.1 ～ '14.3.31）平成16年 | | |
| ◇ 山田家住宅保存活用協議会 | | 設立／解散 |
| （'04.10.30 ～ ）平成16年 | | |
| ◇ 「熊野街道ルネッサンス」 | | 開催／継続中 |
| （'06.4.1 ～ ）平成18年 | | |
| ◇ 熊野街道信達宿藤保存会 | | 設立／活動中 |
| （'10.8.28 ～ ）平成22年 | | |
| ◇ 「サンセットフェスタ」 | | 開催／継続中 |

('15.12.25 ~) 平成 27 年

◇市民会議は、

「NPO 法人せんなんまちづくりねっと」に改組・改名

SENNAN まちづくり市民会議の活動目的は、我々に課せられたミッションと考え、その実現に向け、信頼性・パワー&スピードアップ向上の手段として、新たな人材を迎え、体制の充実を図るため、NPO 法人として再スタートしました。

■ 会員動向 (在籍3月以上の方)

- ◇ 北川 弘 (1997~
- ◇ 石谷鈴子 (1997~1999)
- ◇ 末田恵一 (1997~2003)
- ◇ 北野肇一 (1997~1999)
- ◇ 渡辺 (1997~1998)
- ◇ 川島建治 (1997~1998・2001~2003)
- ◇ 小槻三千代 (1997~
- ◇ 細川愉加 (1997~1998・2001)
- ◇ 荒井純子 (1997~1998)
- ◇ 佐藤満里子 (1997~1999)
- ◇ 吉永 (1997~1998)
- ◇ 高橋 (1997~1998)
- ◇ 中野 (1997~1998)
- ◇ 市原節子 (1997~1998)
- ◇ 西野節子 (1997~2018)
- ◇ 竹井 (1997~1998)
- ◇ 南 良徳 (1998~
- ◇ 小倉繁行 (1998~2000)
- ◇ 杉山頼平 (1999~2007)
- ◇ 杉山晶子 (1999~2012)
- ◇ 寺田喜美子 (1999~2002)
- ◇ 広岡一光 (1999~2000)
- ◇ 木村景子 (1999~2003)
- ◇ 尾屋明子 (1999~2013)
- ◇ 浅井良造 (2000~2002)
- ◇ 澤 成晃 (2000~2001)
- ◇ 尼岡園子 (2000~2002)
- ◇ 森広浩允 (2000~
- ◇ 中山明子 (2000~2001)
- ◇ 佐久間光男 (2001~2004)

- ◇ 三好貞夫 (2001~2017)
- ◇ 若野清美 (2002~2004)
- ◇ 山下徹雄 (2003~2005)
- ◇ 阪口幸司 (2003~2005)
- ◇ 松田秀逸 (2004~2005)
- ◇ 大野茂子 (2005~2007)
- ◇ 道具楠見子 (2005~2009)
- ◇ 杉岡直樹 (2007~2009)
- ◇ 城森 寛 (2008~2012)
- ◇ 森下玲子 (2008~2014)
- ◇ 辻 弥一郎 (2009~2014)
- ◇ 金田明子 (2010~)
- ◇ 村益艶子 (2011~2012)
- ◇ 片木俊昭 (2012~)
- ◇ 高谷周司 (2012~)
- ◇ 藤田力行 (2013~)
- ◇ 戸間由紀子 (2016~2017)
- ◇ 柿本繁雄 (2016~)
- ◇ 西本恵子 (2019~)

■ 編集後記

産声をあげて歩んだ（学んだり、遊んだり）12年余、基本的には自らの生涯学習の成果を地域に生かし・地域活性化の一助になり・自己の生きがいとなり、協働して頂いた人々の何かのきっかけ（インキュベーター）となる活動を目指してきたのですが、その成果も積み上げてみるとそこそこの高さになり、継続されてる事業は、市民の皆さんにも評価され共有財産になったのだと思います。活動を続けられたのは、無理しないけどチョットだけ背伸びした活動、遊び心があって楽しい活動、周辺に理解者の方々がある活動、そして居心地がいい仲間たち。それぞれの行動記録は、夢を注いだ珠玉の瞬間がちりばめられた、自主活動のいい思い出となりました。この成果も各方面の皆様方のご協力・ご指導・ご鞭撻のお陰です。この紙面をお借りして、関係団体及び各位に、会員一同、厚く感謝の意を表します。

お詫び：本文中の組織・団体名称は、当時の名称で記述しております。改称されたところもありますので、ご留意ください。

発行日：2020年10月1日（初版）

発行：NPO 法人せんなんまちづくりねっと

編集人：森 広 浩 允

URL <http://www.senmachinet.com/>

memory

SENNAN まちづくり